



ライセンス管理ドキュメント

ID ベース ライセンスのアクティベートとアクティベート解除方法



2023 年 7 月 14 日
(Revision 1)



エクセルソフト株式会社

はじめに

このたびは、SmartBear 製品をご利用いただき誠にありがとうございます。

SmartBear Software 社は、アメリカ合衆国マサチューセッツ州に本拠を持ち、ソフトウェアの品質と性能を向上させる優れたツールを開発者に提供しています

これまで SmartBear 製品は、キーベース ライセンスにより、製品をインストールしたマシンにライセンスをバインドしていました。新しい SmartBear License Management (SLM) では、ID ベース ライセンスにより、個々のユーザーにライセンスをバインドします。

本ドキュメントでは、TestComplete、TestExecute、ReadyAPI、VirtServer、SwaggerHub、SwaggerHub Explore、VisualTest 製品で採用されている、この新しいライセンス方式のライセンスをアクティベートする方法とアクティベート解除する方法について説明します。

目次

1. SmartBear License Management (SLM) の概要	5
1.1. システム要件	6
1.2. ライセンスの種類	7
1.2.1. 恒久ライセンスとサブスクリプション ライセンス	7
1.2.2. オンライン ライセンスとオフライン ライセンス	8
1.2.3. バンドル ライセンス	8
1.2.4. 評価版ライセンス	8
1.2.5. デフォルトのライセンス割り当て	8
2. SmartBear License Management (SLM) ポータルの使用	9
2.1. ライセンス管理者の操作	9
2.1.1. 組織のメンバーを管理する	10
2.1.2. ライセンスの優先順位	12
2.1.3. ライセンスの使用統計レポート	13
2.2. ライセンス ユーザーの操作	15
3. ライセンスのアクティベートとアクティベート解除	16
3.1. オンラインの評価版ライセンス	17
3.1.1. システム要件	17
3.1.2. 評価版のダウンロード、インストール、アクティベート手順	17
3.1.3. SMARTBEAR アカウントの作成を完了する	18
3.1.4. 別のマシンで評価版を実行する	18
3.2. オンラインの固定ユーザー ライセンス	19
3.2.1. ライセンスを割り当てる (ライセンス管理者が行う手順)	19
3.2.2. ライセンスを使用する (ライセンス ユーザーが行う手順)	25
3.2.3. ライセンスを解放する (ライセンス管理者が行う手順)	27
3.2.4. ライセンスを取り消す (ライセンス管理者が行う手順)	29
3.3. オンラインのフローティング ライセンス	30
3.3.1. ライセンスを割り当てる (ライセンス管理者が行う手順)	30
3.3.2. ライセンスを使用する (ライセンス ユーザーが行う手順)	36
3.3.3. ライセンスを解放する (ライセンス管理者が行う手順)	37
3.3.4. ライセンスを取り消す (ライセンス管理者が行う手順)	40
3.4. オフラインの固定ユーザー ライセンス	41
3.4.1. 必要条件	41
3.4.2. ライセンスをオフラインに変換する	41
3.4.3. オフライン ライセンスを割り当てる	42
3.4.4. ライセンスのアクティベーションを完了する	44
3.4.5. オフライン固定ユーザー ライセンスを解放する	45
3.4.6. オフライン固定ユーザー ライセンスをオンラインに変換する	48
3.5. オフライン フローティング ライセンス	49
3.5.1. 必要条件	50
3.5.2. オフライン ライセンスをリクエストする	51

3.5.3.	オンプレミス ライセンス サーバーをダウンロードする	51
3.5.4.	オンプレミス ライセンス サーバーをインストールする	52
3.5.5.	オンプレミス ライセンス サーバーを設定する	56
3.5.6.	オンプレミス サーバーのセキュリティについて	61
3.5.7.	ライセンスを追加する	62
3.5.8.	ライセンスをユーザーに割り当てる	68
3.5.9.	ライセンスの解放と取り消し	71
3.5.10.	ライセンスを返却する	74
3.5.11.	ヘッドレス テストでライセンスを使用する	80
4.	サポート	81
4.1.	FAQ	81
4.2.	用語	82
4.3.	お問い合わせ	83

1. SmartBear License Management (SLM) の概要

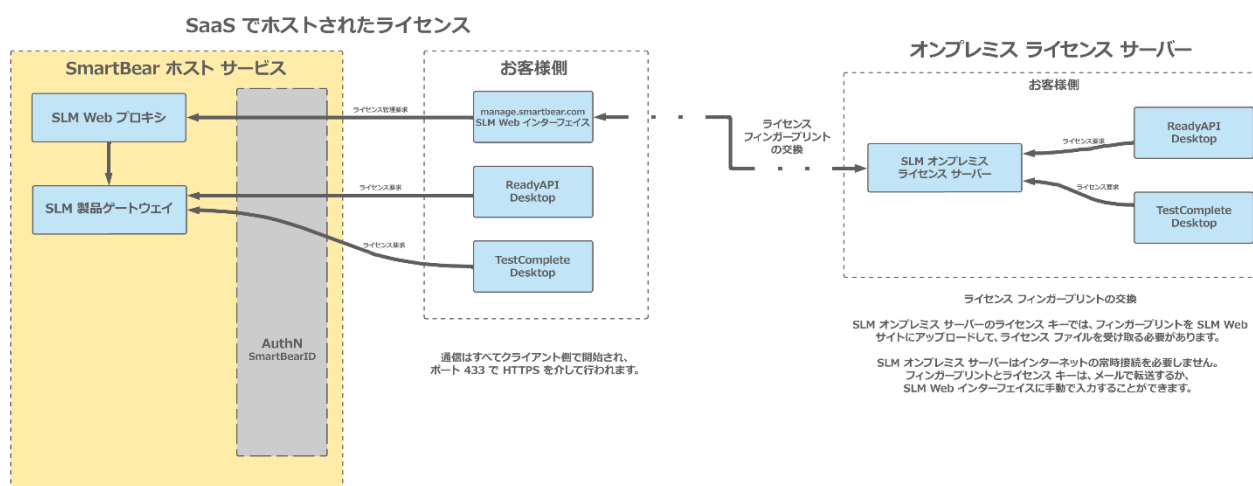
以下の SmartBear 製品は、新しい SmartBear License Management (SLM) で動作します。

- [ReadyAPI](#)
- [SwaggerHub](#)
- [SwaggerHub Explore](#)
- [TestComplete](#)
- [VirtServer](#)
- [VisualTest](#)

新しい SmartBear License Management (SLM) は、従来のライセンス システムと比較して次のようなメリットがあります。

- ライセンス ユーザーは、SmartBear 製品を複数のマシンにインストールでき、シート数に応じて同時実行数が自動的に制限されます。
- ライセンス管理者は、組織のすべてのライセンスの使用状況を確認し、使用されていないライセンスを切断できます。
- 詳細な使用統計レポートを表示したり、エクスポートできます。
- 1 つのライセンス ツールで、すべての SmartBear 製品をカバーします。

ライセンス管理は、以下のコンポーネントで構成されます。



SmartBear License Management について紹介した動画を[こちら](#)からご覧いただけます。

1.1. システム要件

SmartBear 製品を実行するマシンは、以下の SmartBear ライセンス サーバーに接続する必要があります。

- <https://manage.smartbear.com:443>
- <https://api.slm.manage.smartbear.com:443>
- <https://api.id.smartbear.com:443>
- <https://id.smartbear.com:443>

ネットワークで動作しているプロキシやファイアウォールが、このサーバーへの接続を許可している必要があります。必要に応じて、ネットワーク管理者にプロキシやファイアウォールの設定を依頼してください。

- デフォルトでは、製品を購入した時点では、ライセンスはどのユーザーにも割り当てられていません。**ライセンス管理者** (ライセンスを管理するお客様側の担当者) は、ユーザーが SmartBear 製品を実行する前に、ユーザーにライセンスを割り当てる必要があります。詳細は、「[ライセンスのアクティベートとアクティベート解除](#)」を参照してください。
- 本製品を使用するには、**SmartBear アカウント** ([SmartBear License Management ポータル](#)やサービスにアクセスするためのメール アドレスとパスワードの組み合わせ) が必要です。

ライセンス管理者がユーザーにライセンスを割り当てると、ユーザーの SmartBear アカウントが自動的に作成され、ポータルに接続してパスワードを指定するためのリンクが記載されたメールがユーザーに送信されます。

1.2. ライセンスの種類

ライセンスには、**Fixed User** (固定ユーザー) と **Floating** (フローティング) の 2 種類があり、**ライセンスシート** (同時使用可能なライセンス ユーザー数) の消費方法と、特定の環境での使用方法が異なります。

Fixed User (固定ユーザー)	Floating (フローティング)
一般に、個人または少数のチームで使用されます。	一般に、多数のチーム メンバーがいる組織で使用されます。
1 つまたは複数のシートで構成されます。	一般に複数のシートで構成されますが、1 シートで構成することも可能です。
ライセンス管理者がユーザーにライセンス シートを割り当てます (1 ユーザーにつき 1 シート)。シート数を超えるユーザーにライセンスを割り当てることは できません 。	ライセンス管理者がユーザーにライセンス シートを割り当てます。シート数を超えるユーザーにライセンスを割り当てることが できます 。
割り当てられたユーザーだけがライセンス シートを使用でき、そのユーザーがライセンス製品を使用していない場合であっても、他のユーザーはそのユーザーのライセンス シートを消費することはできません。	割り当てられたユーザーであれば誰でもライセンス製品を実行できます。ただし、同時に作業できるユーザーの数は、最大でライセンス シートの数までです。
1 人のユーザーが複数のシートを消費することはできません。	1 人のユーザーが複数のマシンで製品を同時に実行し、複数のシートを消費することができます。
! ライセンスの取り消し/再割り当ての回数が、ライセンスシート数によって制限されます。	ライセンス管理者は、ユーザー リストへの追加や管理、利用可能なシートの割り当て/再割り当てを制限なく自由に行うことができます。
仮想マシン上や Docker コンテナなど、仮想環境では利用できません。 Hyper-V が有効化されている場合、その端末は SLM からは仮想環境として認識され、TestComplete を利用することができないためご注意ください。	仮想マシン上や Docker コンテナで 使用できます 。

1.2.1. 恒久ライセンスとサブスクリプション ライセンス

固定ユーザー ライセンスとフローティング ライセンスには、恒久ライセンスとサブスクリプション ライセンスがあります。後者はサブスクリプション期間が終了すると、製品を使用できなくなります。

※ 恒久ライセンスの新規販売は終了しております。

1.2.2. オンライン ライセンスとオフライン ライセンス

オンライン ライセンスは、Web 上の [SmartBear ライセンス サーバー](#) で管理されます。SmartBear 製品は、これらのサーバーに接続してライセンス シートが利用可能かどうかを確認します。**デフォルトでは、製品の購入時には、このライセンスが発行されます。**

オフライン ライセンスは、Web や SmartBear ライセンス サーバーにアクセスできないプライベート ネットワーク用のライセンスです。プライベート ネットワーク内で SmartBear 製品を使用する場合は、オンライン ライセンスをオフライン ライセンスに変換し、アクティベートする必要があります。この手順は、[固定ユーザー](#) ライセンスと[フローティング](#) ライセンスで異なります。

1.2.3. バンドル ライセンス

SmartBear のバンドル ライセンスは、ReadyAPI (Test Pro、Performance Pro、Virtualization Pro)、TestComplete、TestExecute など、製品群にまたがる機能を有効にします。

特定の製品のライセンスをすでにインストールしている場合、それらを含むバンドル ライセンスをインストールすると、既存のライセンスが置き換わりますが、既存のライセンスが無効になることはありません。既存のライセンスを別のマシンに移動する場合は、**バンドル ライセンスをインストールする前に**、ライセンスを無効にしてください。

ヒント: 製品内の複数のアプリケーション (例: ReadyAPI Test Pro、Ready API Virtualization Pro など) を含むバンドル ライセンスでは、1 ライセンス シートにつき 1 ユーザーが使用できます。しかし、2 つの異なる製品 (例: TestComplete と TestExecute) を含むバンドル ライセンスでは、1 製品につき 1 ユーザーが使用できるため、1 ライセンス シートで 2 ユーザーがバンドルされた 2 つの製品を操作できます。

1.2.4. 評価版ライセンス

評価版ライセンスとは、SmartBear の Web サイトで評価版を申し込んだユーザーに自動的に割り当てられる、1 シートの期限付きライセンスです。

1.2.5. デフォルトのライセンス割り当て

製品を購入した時点では、ライセンスはどのユーザーにも割り当てられていません。**ライセンス管理者** (お客様側の担当者) が、SmartBear License Management ポータルでユーザーにライセンス (つまり、ライセンス シート) を割り当てます。ライセンス製品を実行するには、ライセンス管理者が割り当てに使用したメール アドレスを指定する必要があります。詳細は、「[ライセンスのアクティベートとアクティベート解除](#)」を参照してください。

2. SmartBear License Management (SLM) ポータルの使用

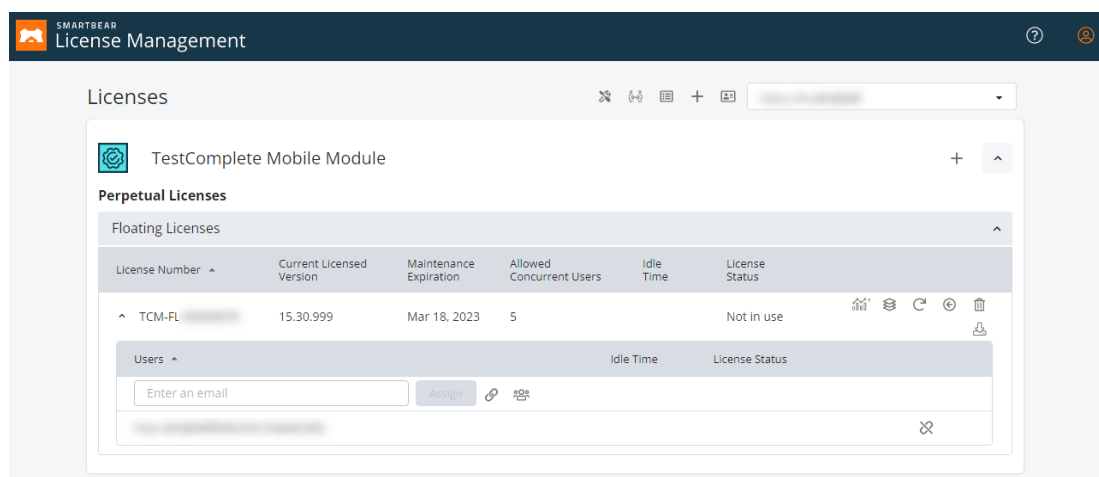
SmartBear License Management ポータル (<https://manage.smartbear.com>) でライセンスを管理します。ライセンス ユーザー (使用者) とライセンス管理者では、ポータルで利用可能な機能や操作が異なります。

2.1. ライセンス管理者の操作

ライセンス管理者は、SmartBear License Management ポータル (<https://manage.smartbear.com>) で SmartBear ライセンスの割り当て、割り当て状況の確認、使用状況の確認 (使用中かどうか、および使用期間)、解放 (ユーザーの切断)、取り消し (割り当て解除) などを行うことができます。

! ライセンスを管理するには、ライセンス管理者のロール (権限) が必要です。

SmartBear License Management ポータルにログインすると、管理可能なすべてのライセンスが表示されます。以下に例を示します。



ライセンス購入者が複数いる組織では、右上のリストから適切なアカウントを選択する必要があります。

ライセンスの割り当てと解放/取り消しの手順は、ライセンスの種類により異なります。詳細は、「[ライセンスのアクティベートとアクティベート解除](#)」を参照してください。


このセクションでは、SmartBear License Management ポータルでライセンス管理者が行うことができる以下の操作について説明します。

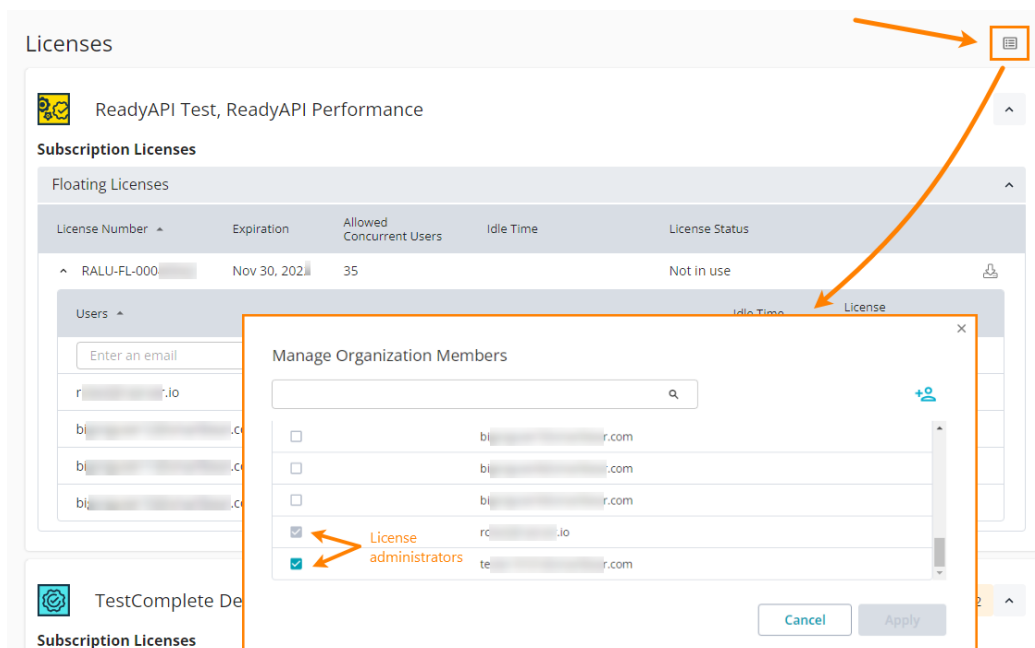
- [組織のメンバーを管理する](#)
 - [ライセンス管理者を追加する](#)
 - [ライセンス管理者を削除する](#)
 - [組織のメンバーを削除する](#)

- ライセンスの優先順位
- ライセンスの使用統計レポート
 - TABLE ビュー
 - CHART ビュー
 - 使用統計をエクスポートする


2.1.1. 組織のメンバーを管理する

ライセンス管理者は、管理者権限を他のユーザーに付与したり、既存の管理者から権限を削除できます。

管理者リストを管理するには、ページの上にある  をクリックします。以下のダイアログ ボックスが表示されます。



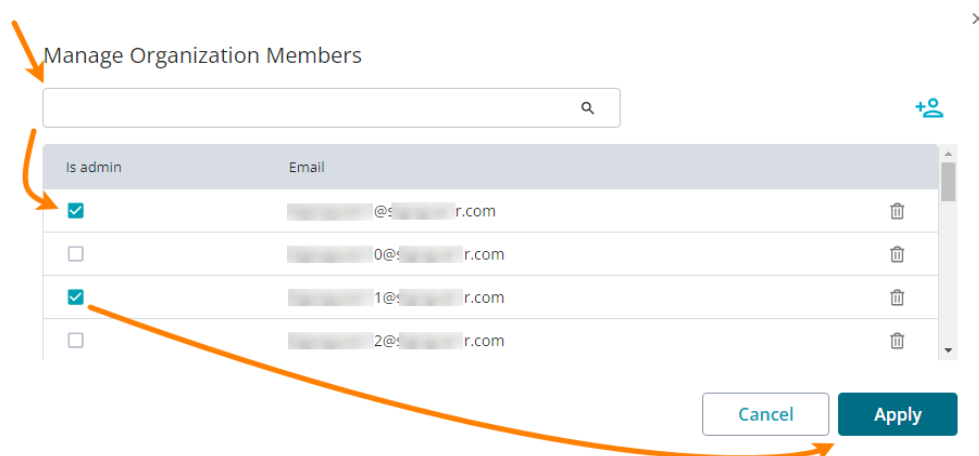
ライセンスを管理できるユーザーは、このダイアログの **[Is Admin]** チェックボックスがオンになっています。

 これらのユーザーは、ライセンス管理画面に表示されるすべてのライセンスを管理することができます。

2.1.1.1. ライセンス管理者を追加する

ライセンス管理者に追加するユーザーがライセンスを持っている場合:

- 検索ボックスにユーザーの SmartBear アカウントのメール アドレスを入力し (メール アドレスの一部でもかまいません)、検索結果からそのユーザーの名前の横にある **[Is Admin]** チェックボックスをオンにします。

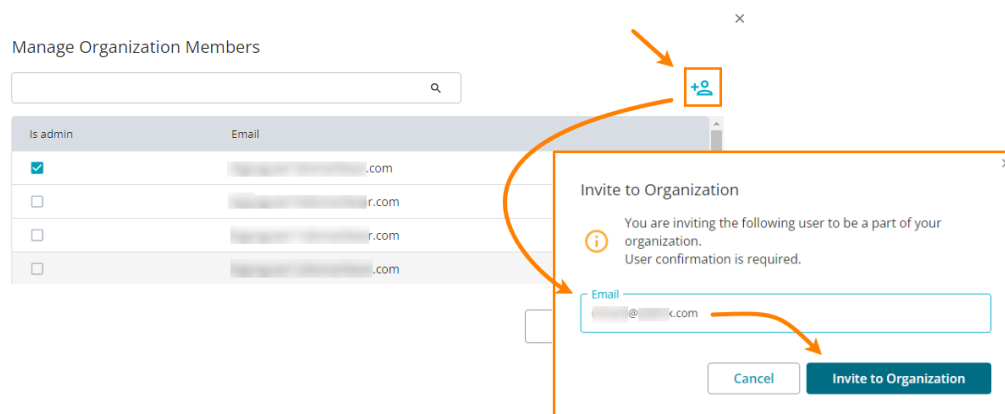


この方法で複数のユーザーをライセンス管理者にすることができます。

[Apply] をクリックして変更を保存します。


ライセンス管理者に追加するユーザーがライセンスや SmartBear アカウントを持っていない場合:

- +** をクリックして、表示されるダイアログでユーザーのメール アドレスを入力し、**[Invite License Administrator]** をクリックします。



指定したメール アドレスの SmartBear アカウントが見つからない場合は、新しい SmartBear アカウントが作成され、アカウントの作成を完了するように求めるメッセージがユーザーに送信されます。

! ユーザーが招待を受け入れ、アカウントの作成を完了する必要があります。


 ライセンス管理者が不在で、別の人を管理者リストに追加する必要がある場合は、[SmartBear カスタマー ケア チーム](#)または[販売代理店](#)にご連絡ください。


SmartBear License Management について紹介した動画を[こちら](#)からご覧いただけます。

2.1.1.2. ライセンス管理者を削除する

1. ライセンス管理者のリストからユーザーを見つけます。
2. ユーザーの名前の横にある **[Is Admin]** チェックボックスをオフにします。**[Apply]** をクリックして変更を保存します。

2.1.1.3. 組織のメンバーを削除する

1. 組織のメンバーを削除するには、組織のメンバーのリストからユーザーを見つけます。
2. ユーザーの名前の横にある  **[Remove Organization Member]** をクリックします。

 組織のメンバーを削除しても、ライセンスは自動的に取り消されません。代わりに、ライセンス管理者が他のメンバーに再割り当て可能なライセンスを簡単に識別できるように、ハイライト表示されます (該当する場合)。

2.1.2. ライセンスの優先順位

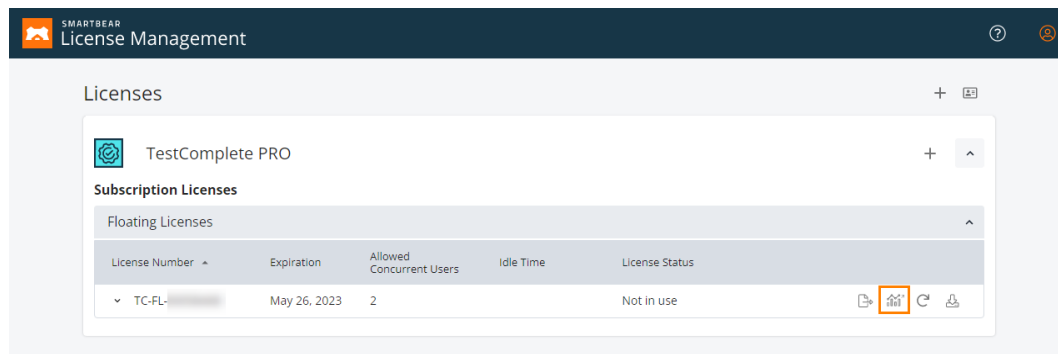
1 人のユーザーに対して同じ SmartBear 製品の複数のライセンスが割り当てられることがあります。その場合、以下の規則に従って、ライセンスが適用されます。

1. すでに使用中のライセンスが最優先されます。つまり、ユーザーがライセンスを要求すると、ライセンス管理は、マシンにチェックアウトされたライセンスがあるかどうかを確認します。
2. 製品版ライセンスは、評価版ライセンスよりも優先されます。
3. 固定ユーザー ライセンスは、フローティング ライセンスよりも優先されます。
4. 古いライセンスは、新しいライセンスよりも優先されます。

ライセンス管理によって適用されたライセンスから別のライセンスに切り替える場合、ライセンスを取り消すと、次の優先度のライセンスが適用されます。

2.1.3. ライセンスの使用統計レポート

ライセンス管理者は、[View Report] ボタンをクリックして、組織内の SmartBear ライセンスの割り当てと取り消しに関する統計情報を確認できます。



ライセンスの使用状況は、TABLE ビューと CHART ビューで示されます。

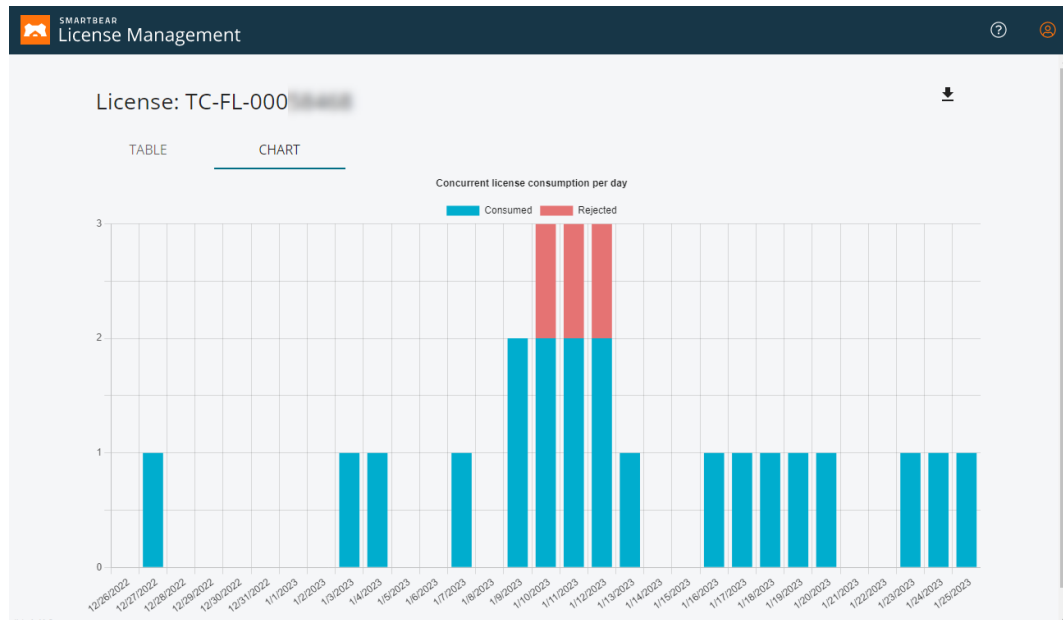
2.1.3.1. TABLE ビュー

TABLE ビューには、ライセンスの使用に関する主要なデータが表示されます。**Locking** イベントは、ライセンス シートの確保に成功したリクエストを記録します。**Unlocking** はシートの解放を示します。**[Remaining Seats]** 列には、ライセンスで利用可能なシート数が表示されます。

Date	Product Name	User Email	User IP	Event	Remaining Seats	Host name
1/25/2023 5:13:38 AM	TestComplete Platform	@smc	scheduler	LICENSE_UNLOCK...	2/2	sb-pw-
1/25/2023 5:11:38 AM	TestComplete Platform	@smc	scheduler	LICENSE_UNLOCK...	1/2	sb-pw-
1/25/2023 5:10:23 AM	TestComplete Platform	@smc	44.204.88	LICENSE_LOCKED	1/2	sb-pw-
1/25/2023 5:09:38 AM	TestComplete Platform	@smc	scheduler	LICENSE_UNLOCK...	1/2	sb-pw-

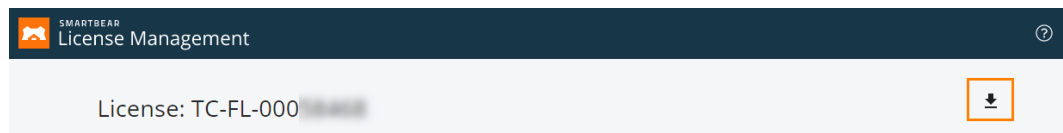
2.1.3.2. CHART ビュー

CHART ビューには、過去 1 か月間の日別のライセンス使用状況が表示されます。青色は同時に使用されたシート数を示し、赤色はライセンスの上限に達したため拒否されたリクエスト数を示します。



2.1.3.3. 使用統計をエクスポートする

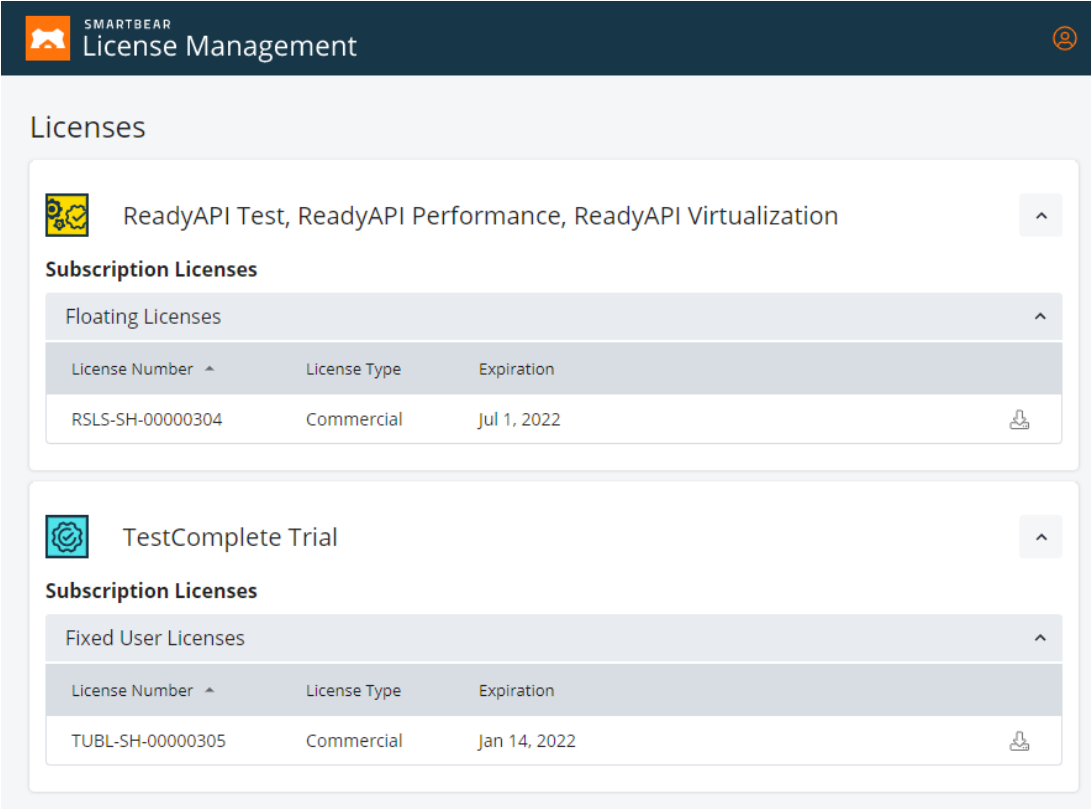
[Download CSV] ボタンをクリックして、使用統計をエクスポートできます。



2.2. ライセンス ユーザーの操作

ライセンス ユーザーは、SmartBear License Management ポータル (<https://manage.smartbear.com>) で割り当てられたライセンスを確認し、製品のインストーラーをダウンロードできます。

SmartBear License Management ポータルにログインすると、利用可能なすべてのライセンスが表示されます。以下に例を示します。



The screenshot displays the SmartBear License Management portal interface. At the top, there is a dark blue header with the SmartBear logo and the text "License Management". Below the header, the main content area is titled "Licenses". It contains two expandable sections, each with a product icon and name. The first section, "ReadyAPI Test, ReadyAPI Performance, ReadyAPI Virtualization", is expanded to show "Subscription Licenses" under the "Floating Licenses" category. It contains a table with one license entry. The second section, "TestComplete Trial", is also expanded to show "Subscription Licenses" under the "Fixed User Licenses" category, containing a table with one license entry. Both tables have columns for "License Number", "License Type", and "Expiration".

License Number	License Type	Expiration
RSL5-SH-00000304	Commercial	Jul 1, 2022

License Number	License Type	Expiration
TUBL-SH-00000305	Commercial	Jan 14, 2022

ライセンスのアクティベートと使用の手順はライセンスの種類により異なります。詳細は、「[ライセンスのアクティベートとアクティベート解除](#)」を参照してください。

3. ライセンスのアクティベートとアクティベート解除

ライセンスの種類によって、ライセンスのアクティベートとアクティベート解除の方法が異なります。

- [オンラインの評価版ライセンス](#)
- [オンラインの固定ユーザー ライセンス](#)
- [オンラインのフローティング ライセンス](#)
- [オフラインの固定ユーザー ライセンス](#)
- [オフラインのフローティング ライセンス](#)

注意:

オンライン ライセンスは Web 上の SmartBear ライセンス サーバーによって管理され、**オフライン** ライセンスは製品のライセンス サブシステム (固定ユーザー ライセンスの場合) またはプライベート ネットワーク上のオンプレミス ライセンス サーバー (フローティング ライセンスの場合) によって管理されます。

デフォルトでは、購入時にオンライン ライセンスが発行されます。オンライン ライセンスは、製品の起動時と実行時にライセンス サーバーへのアクセスを必要とします。

可能な限り、管理と保守が容易なオンライン ライセンスを使用することを推奨します。[SmartBear ライセンス サーバー](#)への接続を許可するように、ネットワークのプロキシやファイアウォールを設定可能かどうか、ネットワーク管理者に確認してください。設定により接続を許可できる場合、通常の方法でライセンスをアクティベートして使用できます。

設定により接続を許可できない場合は、オンラインの SmartBear ライセンスをオフラインに変換し、プライベート ネットワークでオフライン ライセンスをアクティベートする必要があります。この手順は、[固定ユーザー ライセンス](#)と[フローティング ライセンス](#)で異なります。

オフライン ライセンスは、SmartBear ライセンス サーバーへの接続を必要としません。ライセンスは、アクティベートしたマシンにバインドされ、解放するまで、別のマシンでアクティベートすることはできません。

3.1. オンラインの評価版ライセンス

SmartBear 製品の評価版は、<https://www.xlsoft.com/jp/products/smartbear/download.html> から申し込むことができます。製品によって評価期間が異なりますので、各製品の詳細をご確認ください。

このセクションでは、オンラインの評価版ライセンスに関する以下のトピックについて説明します。

- システム要件
- 評価版のダウンロード、インストール、アクティベート手順
- SmartBear アカウントの作成を完了する
- 別のマシンで評価版を実行する

3.1.1. システム要件

SmartBear 製品をインストールして実行するマシンは、以下の SmartBear ライセンス サーバーにアクセスできる必要があります。

- <https://manage.smartbear.com:443>
- <https://api.slm.manage.smartbear.com:443>
- <https://api.id.smartbear.com:443>
- <https://id.smartbear.com:443>

ネットワークで動作しているプロキシやファイアウォールが、このサーバーへの接続を許可している必要があります。必要に応じて、ネットワーク管理者にプロキシやファイアウォールの設定を依頼してください。

! 製品の起動時と実行時に SmartBear ライセンス サーバーへのアクセスが必要になります。

3.1.2. 評価版のダウンロード、インストール、アクティベート手順

1. <https://www.xlsoft.com/jp/products/smartbear/download.html> で評価する製品の **[評価版を申し込む]** ボタンをクリックします。
2. 表示される SmartBear 社の評価版申し込みフォームで必要事項を記入し、**[Start Trial]** ボタンをクリックして、製品のインストーラーをマシンにダウンロードします。

! ダウンロードしたファイル名を変更しないでください。

3. 製品をインストールして実行します。

これで、体験版を利用できます。初回実行時にアクティベートする必要はありません。ただし、再起動後に製品を実行したり、別のマシンで評価版を実行する場合は、SmartBear アカウントの作成を完了する必要があります。

SmartBear License Management での評価版ライセンスの操作について紹介した動画を[こちら](#)からご覧いただけます。

3.1.3. SmartBear アカウントの作成を完了する

評価版の申し込み時に SmartBear アカウントを持っていない場合は、申し込みフォームに入力されたメールアドレスと空のパスワードでアカウントが自動的に作成されます。このアカウントで評価版を起動できますが、後で製品を使用する場合は、アカウントの作成を完了する必要があります。

手順は簡単で、評価版の申し込み後に、作成されたアカウントの情報と手続きの完了を求めるメールが送信されます。このメールに記載されている **[follow the link]** から SmartBear License Management ポータルにアクセスして、アカウントのパスワードを指定してください。

3.1.4. 別のマシンで評価版を実行する

SmartBear アカウントを作成後、別のマシンに評価版をインストールして実行できます。この場合、次の操作を行います。

1. 現在のマシンで製品を終了します。これにより、SmartBear ライセンス サーバーでライセンスが解放されます。
2. 別のマシンで製品を起動して、起動時に SmartBear アカウントを指定します。

 オフラインのマシンでは、フローティング ライセンスの評価版を実行できます。ライセンス管理者は、オフライン ライセンスをリクエストしてください。

3.2. オンラインの固定ユーザー ライセンス

固定ユーザー ライセンスは、ライセンス シートを利用できるユーザーを厳密に定義します。このライセンスは、組織だけでなく、個人でも利用できます。

このセクションでは、オンラインの固定ユーザー ライセンスに関する以下のトピックについて説明します。

- [ライセンスを割り当てる \(ライセンス管理者が行う手順\)](#)
- [ライセンスを使用する \(ライセンス ユーザーが行う手順\)](#)
- [ライセンスを解放する \(ライセンス管理者が行う手順\)](#)
- [ライセンスを取り消す \(ライセンス管理者が行う手順\)](#)

! **固定ユーザー ライセンスは、仮想環境では利用することはできません。**

Hyper-V が有効化されている場合、その端末は SLM からは仮想環境として認識され、TestComplete を利用することができないためご注意ください。

3.2.1. ライセンスを割り当てる (ライセンス管理者が行う手順)

一般に、ライセンスの購入者と管理者が、製品の使用者とは限りません。そのため、デフォルトでは、固定ユーザー ライセンスはどのユーザーにも割り当てられていません。ライセンス管理者が、ユーザーにライセンスを割り当てる必要があります。

以下は、製品を購入後に**ライセンス管理者**が行う手順です。

1. SmartBear アカウントを持っていない場合は、作成する必要があります。作成手順は簡単です。評価版の申し込み時、または製品の購入時に SmartBear アカウントが作成され、アカウントの作成を完了するためのリンクが記載されたメールが送信されています。このリンクをクリックして、SmartBear License Management ポータルでアカウントのパスワードを設定してください。

SmartBear アカウントを持っている場合は、SmartBear License Management ポータル (<https://manage.smartbear.com>) にログインします。

2. ユーザーにライセンスを割り当てます。以下のいずれかの方法で割り当てることができます。

- [1 人のユーザーにライセンスを割り当てる](#)
- [リンクを使用してライセンスを共有する](#)
- [一括割り当て](#)

ライセンス シートを複数のユーザーに割り当てる最も簡単な方法は、リンクを使用してライセンスを共有することです。一括割り当ては、SmartBear アカウントを持っているユーザーにライセンスシートをすばやく割り当てることができます。

! 固定ユーザー ライセンスは、**取り消し/再割り当て**の回数がシート数によって制限されるため、**割り当てるユーザーを慎重に選んでください**。たとえば、ライセンスに 10 シートある場合、ライセンス管理者は各シートを 1 回ずつ、1 つのシートを 10 回、または任意の組み合わせで、最大 10 回まで取り消して再割り当てを行うことができます。再割り当ての制限に達すると、エラーメッセージが表示されます。1 シートのライセンスの場合は、**1 シートにつき 1 回しか再割り当てできません**。

■ オプション 1: 1 人のユーザーにライセンスを割り当てる

- ① ポータルで製品とライセンスを見つけます。
- ② ユーザーのメール アドレスを入力して **[Assign]** をクリックします（このボタンは有効なメール アドレスを入力するまで無効です）。

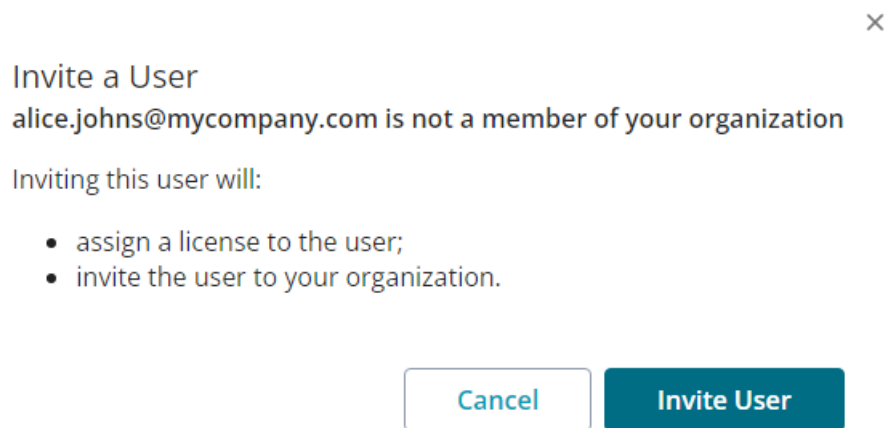


ReadyAPI Test, ReadyAPI Performance, ReadyAPI Virtualiza

Floating Licenses		
License Number ^	Expiration	Allowed Concurrent Users
^ RSLs-SH-00001487	Jan 12, 2022	10

Users ^	Idle Time
<input type="text" value="alice.johns@mycompany.com"/> <input type="button" value="Assign"/>	
john.smith@mycompany.com	

- ③ ポータルは、指定されたメール アドレスに SmartBear アカウントが紐付けられているか確認します。
 - アカウントが見つかった場合は、割り当ての確認メッセージが表示されます。確認すると、ライセンスが割り当てられたことを通知するメールがユーザーに送信されます。
 - アカウントが見つからない場合は、ユーザーを招待するように求めるメッセージが表示されます。



[Invite User] をクリックします。

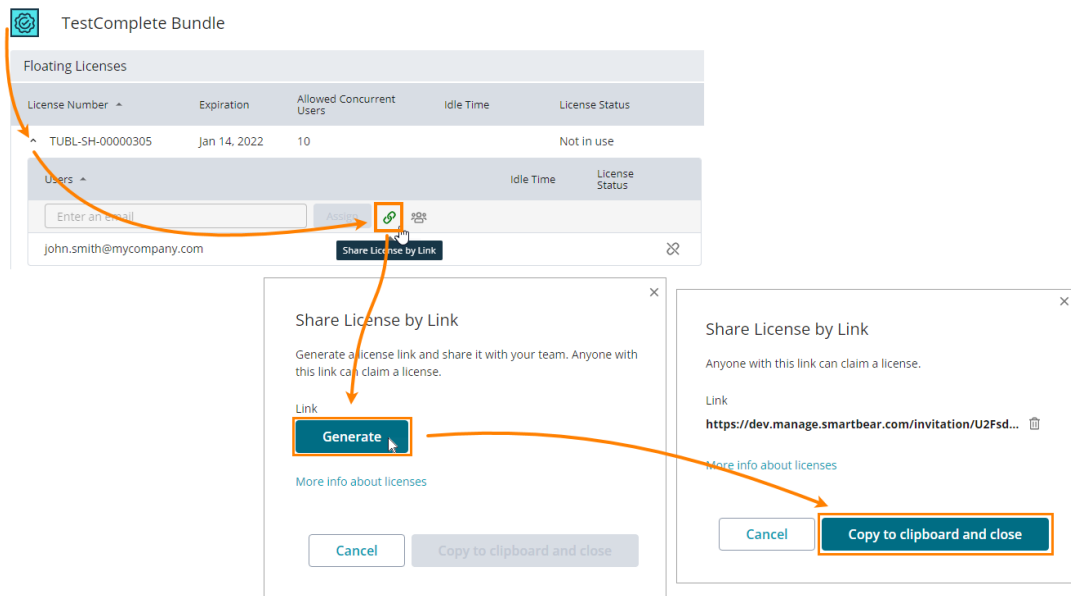
ポータルは、指定されたメール アドレスで新しい SmartBear アカウントを作成し、アカウントの作成を完了するように求めるメッセージをユーザーに送信します。アカウントの作成を完了すると、作成したアカウントを使用して SmartBear 製品をダウンロード、インストール、実行することができます。

ライセンスに複数のシートがある場合は、シートごとに上記の手順を繰り返すか、以下の「一括割り当て」、または「リンクを使用してライセンスを共有する」の手順を実行します。

■オプション 2: リンクを使用してライセンスを共有する

この方法を使用すると、SmartBear アカウントの有無に関係なく、チーム メンバーとすばやくライセンスを共有できます。

- ① SmartBear License Management ポータルで製品とライセンスを見つけて、🔗 **[Share License by Link]** をクリックします。
- ② 表示されるダイアログ ボックスで、**[Generate]** をクリックしてライセンスの URL を取得し、この URL をクリップボードにコピーします。



- ③ ライセンスを割り当てるユーザーに URL を送ります。ユーザーは URL を使用してライセンスシートを取得します。

リンクは、SmartBear アカウントをすでに持っているユーザーにも、持っていないユーザーにも送ることができます。

- ④ ユーザーはライセンス URL を受け取ったら、ブラウザで開き、画面の指示に従ってください。

- SmartBear License Management ポータルへのログインが必要です。SmartBear アカウントを持っていない場合は、ログイン フォームから作成する必要があります。
- ライセンスの承諾を求めるメッセージが表示されます。ライセンスを使用するには、**[Accept?]** をクリックして承諾する必要があります。

Hi Alice.


You are entitled to use the following license:

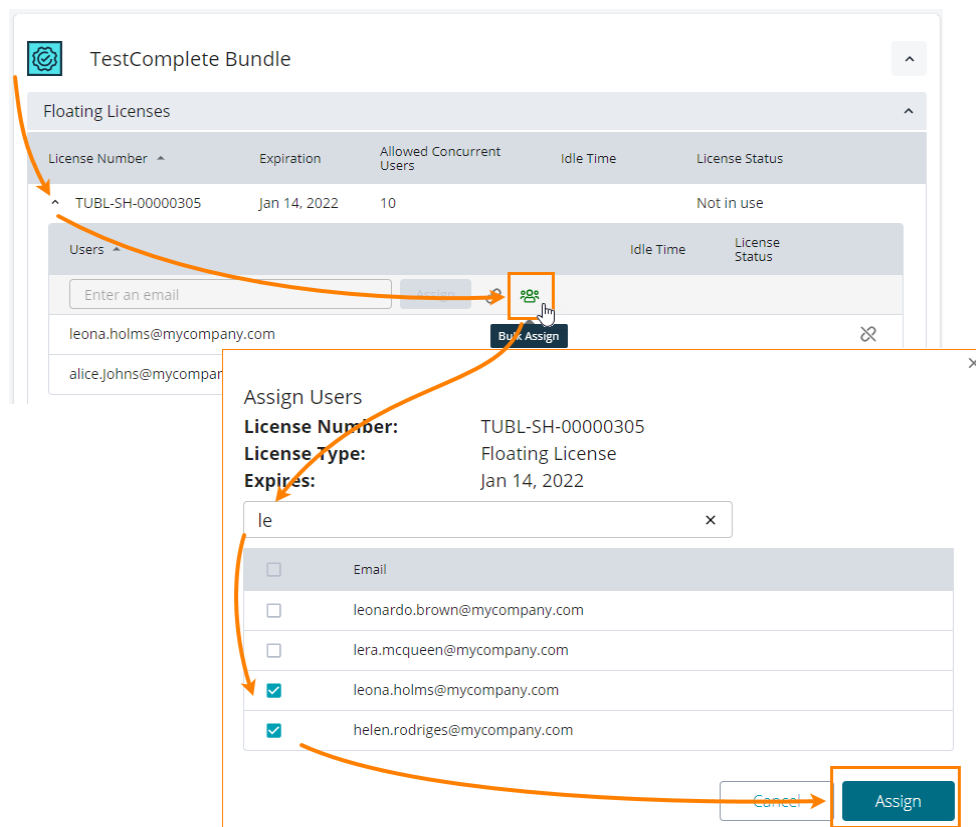
TUBL-SH-00000305
 TestComplete Bundle License
 Valid from Jan 14, 2021 till Jan 14, 2022

Accept? **Cancel**

■ オプション 3: 一括割り当て

この方法を使用すると、**SmartBear アカウントを持っているユーザー**にライセンス シートを割り当てることができます。

- ① ポータルで製品とライセンスを見つけて、 **[Bulk Assign]** をクリックします。
- ② 表示されるダイアログで、ユーザー アカウントを選択し、ユーザーのメール アドレスの横にあるチェックボックスをオンにし、**[Assign]** をクリックします (このボタンは有効なメール アドレスを入力するまで無効です)。



ユーザーが 2 台以上のマシンでライセンスを使用している場合、ポータルには使用しているマシンの情報が表示されます。

ReadyAPI Test, ReadyAPI Performance, ReadyAPI Virtualization

Subscription Licenses

Floating Licenses

License Number	Expiration	Allowed Concurrent Users	Idle Time	License Status
^ RSL5-SH-00000304	Jul 1, 2022	10		In use

Users

Enter an email Assign

Users	Idle Time	License Status
alice.johns@mycompany.com	a few seconds	Using the license Disconnect
helen.rodriques@mycompany.com		Disconnect
john.smith@mycompany.com		Using 2 Licenses Disconnect
leonardo.brown@mycompany.com		Disconnect


View

Disconnect user john.smith@mycompany.com from license RSL5-SH-00000304

Machine	Idle Time
Test2	a few seconds Disconnect
Test1	a few seconds Disconnect

Close

3. 必要に応じて、招待メールを再送することができます。招待メールを再送するには、以下の操作を行います。

- ① ポータルにログイン後、画面上部にある  [Manage Organization Members] をクリックします。

SMARTBEAR License Management

Licenses

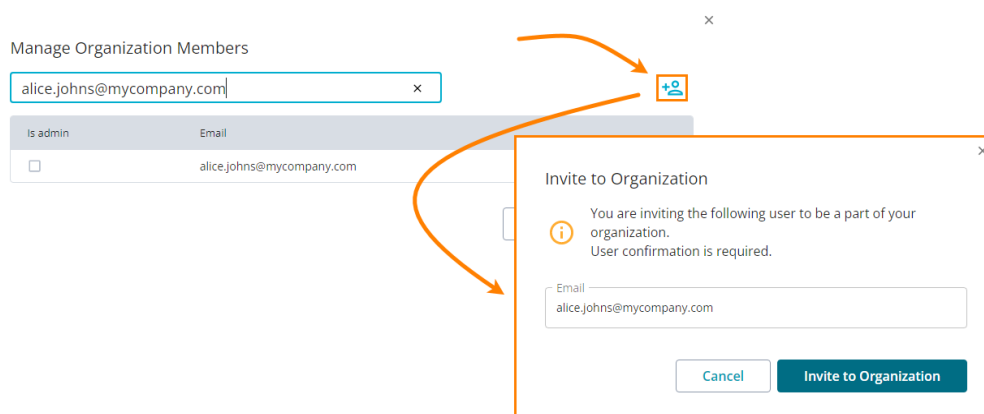
TestComplete Mobile Module

Perpetual Licenses

Floating Licenses

License Number	Current Licensed Version	Maintenance Expiration	Allowed Concurrent Users	Idle Time	License Status
^ TCM-FL-000	15.	Oct 26, 2022	5		Not in use

- ②  **[Invite to Organization]** をクリックします。



- ③ ユーザーのメール アドレスを再入力して、**[Invite to Organization]** ボタンをクリックします。招待メールが送信されると、通知が表示されます。


3.2.2. ライセンスを使用する (ライセンス ユーザーが行う手順)

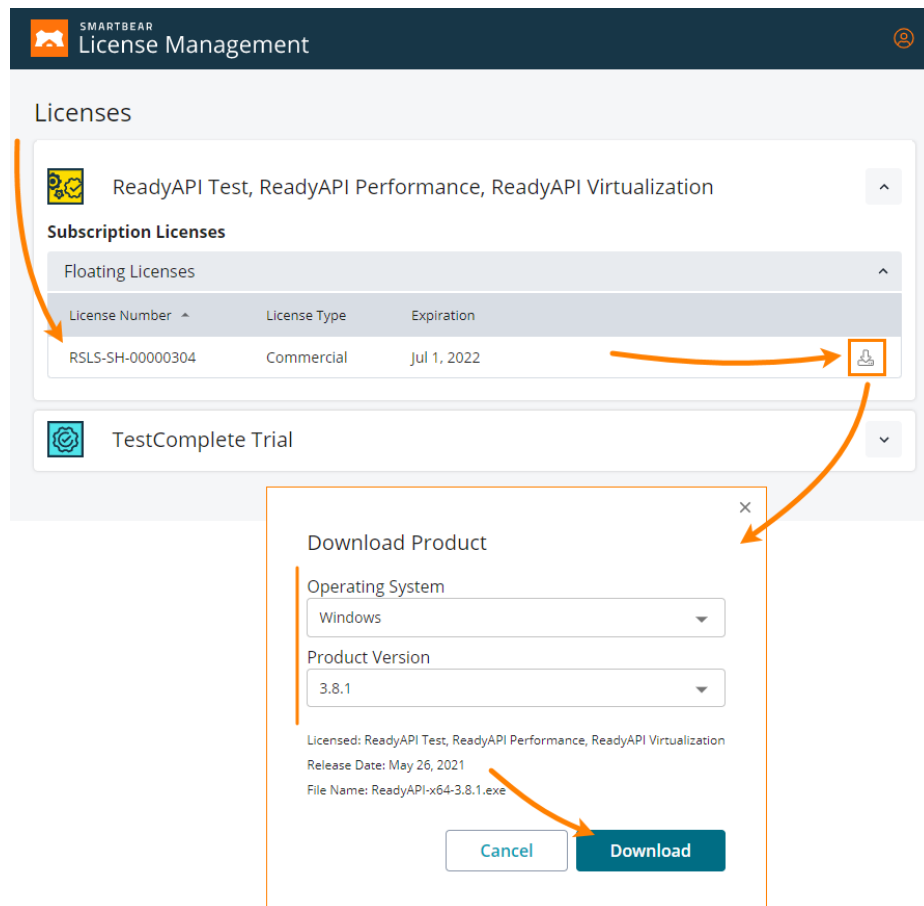
以下は、**ライセンスを使用するユーザー**が行う手順です、

1. まだ SmartBear アカウントを持っていない場合は、SmartBear License Management ポータル (<https://manage.smartbear.com>) で **SmartBear アカウントを作成**します。

ライセンス管理者はライセンスを割り当てる際に、ユーザーのメール アドレスを指定します。ライセンス管理ツールは、このメール アドレスに SmartBear アカウントが紐づけられているかどうかを確認します。アカウントが見つからない場合は、アカウントを作成し、アカウントの作成を完了するように求めるメールをユーザーに送信します。

2. **SmartBear 製品をマシンにダウンロード**します。

- ① ポータルで製品とライセンスを見つけます。
- ② ライセンス ノードを展開して、ライセンス シートが割り当てられた SmartBear アカウントを見つけます。
- ③  をクリックします。表示されるダイアログで、ダウンロードする製品バージョンを選択し、**[Download]** をクリックします。



3. ダウンロードしたパッケージを使用して、**製品をインストール**します。

マシンは、以下の SmartBear ライセンス サーバーに接続できる必要があります。

- o <https://manage.smartbear.com:443>
- o <https://api.slm.manage.smartbear.com:443>
- o <https://api.id.smartbear.com:443>
- o <https://id.smartbear.com:443>

ネットワークで動作しているプロキシやファイアウォールが、このサーバーへの接続を許可している必要があります。ネットワーク管理者にプロキシやファイアウォールの設定を依頼してください。

デフォルトでは、製品の起動時と実行時に SmartBear ライセンス サーバーへのアクセスが必要になります。必要に応じて、インターネットに接続されていないプライベート ネットワークで利用することも可能です。詳しくは、[SmartBear または販売代理店](#)にお問い合わせください。

4. **製品を実行**します。製品の起動時に SmartBear アカウントを指定するように求められたら、アカウントのメール アドレスとパスワードを入力してください。製品は SmartBear ライセンス サーバーに接続し、ライセンス取得します。


ライセンスを解放するには、製品を終了するか、マシンをオフにします。これで、必要に応じて、別のマシンで製品を実行できます。

3.2.3. ライセンスを解放する (ライセンス管理者が行う手順)

ユーザーが製品を使用していないにもかかわらず、ライセンス シートを消費している可能性は十分にあります。例えば、製品を終了するのを忘れて帰宅した場合などです。この場合、ライセンス管理者は、ユーザーのライセンス シートを解放し (ユーザーをライセンス サーバーから切断し)、他のユーザーがライセンスを利用できるようにすることができます。次の操作を行います。

1. ポータルで製品とライセンスを見つけます。
2. **[License status]** と **[Idle time]** を確認します。

[License status] はライセンスが使用中かどうかを示し、**[Idle time]** はライセンスが使用されていない期間をレポートします。


ReadyAPI Test, ReadyAPI Performance, ReadyAPI Virtualization

Subscription Licenses

Floating Licenses

License Number ^	Expiration	Allowed Concurrent Users	Idle Time	License Status
^ RSLs-SH-00000304	Jul 1, 2022	10		In use
<div> Users ^ </div> <div> <input type="text" value="Enter an email"/> <input type="button" value="Assign"/> </div>			<div> Idle Time </div>	<div> License Status </div>
alice.johns@mycompany.com			a few seconds	Using the license
helen.rodriques@mycompany.com				
john.smith@mycompany.com			an hour	Using the License
leonardo.brown@mycompany.com				

3. ライセンスが使用されていないことを確認したら、**[Disconnect]** をクリックしてライセンスを解放します。

ReadyAPI Test, ReadyAPI Performance, ReadyAPI Virtualization

Subscription Licenses

Floating Licenses

License Number	Expiration	Allowed Concurrent Users	Idle Time	License Status
RSL5-SH-00000304	Jul 1, 2022	10		In use

Users

Users	Idle Time	License Status
alice.johns@mycompany.com	a few seconds	Using the license
helen.rodriques@mycompany.com		
john.smith@mycompany.com	an hour	Using the License
leonardo.brown@mycompany.com		

4. ユーザーが 2 台以上のマシンでライセンスを使用している場合、切断するマシンを指定するように求めるダイアログが表示されます。

ReadyAPI Test, ReadyAPI Performance, ReadyAPI Virtualization

Subscription Licenses

Floating Licenses

License Number	Expiration	Allowed Concurrent Users	Idle Time	License Status
RSL5-SH-00000304	Jul 1, 2022	10		In use

Users

Users	Idle Time	License Status
alice.johns@mycompany.com	a few seconds	Using the license
helen.rodriques@mycompany.com		
john.smith@mycompany.com	View	Using 2 Licenses
leonardo.brown@mycompany.com		

Disconnect user john.smith@mycompany.com from license RSL5-SH-00000304

Machine	Idle Time
Test2	a few seconds
Test1	a few seconds

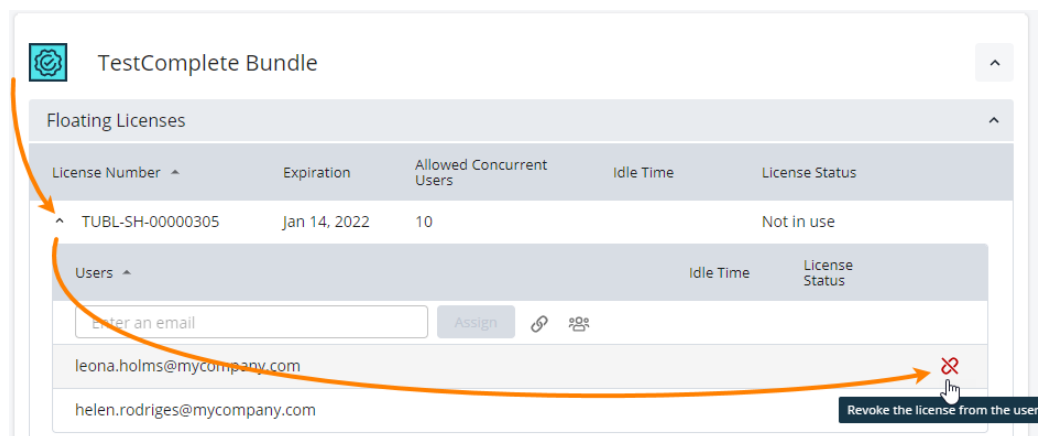
Close

! **ライセンスの解放（ユーザーの切断）とライセンスの取り消しは異なります。** 解放（切断）は、ユーザーによるライセンスの使用を終了するだけで、割り当てリスト（つまり、製品を利用可能なユーザーのリスト）から削除するものではありません。取り消しは、ユーザーを割り当てリストから削除します。

3.2.4. ライセンスを取り消す（ライセンス管理者が行う手順）

ユーザーがライセンスを必要としなくなった場合、ライセンスを取り消すことができます。

1. ライセンス管理ポータルで、取り消す製品とライセンスを見つけて、ライセンス ノードを展開します。
2. リストからユーザー アカウントを見つけます。[License status] と [Idle time] をチェックして、ユーザーが製品を使用していないことを確認します。
3. ✕ をクリックして、ユーザーのライセンスを取り消します。



取り消したライセンスは別のユーザーに割り当てることができます。

! **固定ユーザー ライセンスでは、取り消し/再割り当ての回数がシート数によって制限されます。** 例えば、ライセンスに 10 シートある場合、ライセンス管理者は各シートを 1 回ずつ、1 つのシートを 10 回、または任意の組み合わせで、最大 10 回まで取り消して再割り当てを行うことができます。再割り当ての制限に達すると、エラー メッセージが表示されます。1 シートのライセンスの場合は、**1 シートにつき 1 回しか再割り当てできません。**

3.3. オンラインのフローティング ライセンス

フローティング ライセンスは、一般に複数のユーザーが同じ製品を同時に使用する必要がある組織で使用されます。ライセンス管理者は、複数のユーザーにライセンスを割り当て（つまり、製品を実行可能なユーザーのプールを作成）、ライセンスが割り当てられたすべてのユーザーは、ライセンス シートが利用可能であれば、この製品を実行できます。

このセクションでは、オンラインのフローティング ライセンスに関する以下のトピックについて説明します。

- [ライセンスを割り当てる \(ライセンス管理者が行う手順\)](#)
- [ライセンスを使用する \(ライセンス ユーザーが行う手順\)](#)
- [ライセンスを解放する \(ライセンス管理者が行う手順\)](#)
- [ライセンスを取り消す \(ライセンス管理者が行う手順\)](#)

3.3.1. ライセンスを割り当てる (ライセンス管理者が行う手順)

多くの組織では、IT チームがライセンスの購入と管理を行い、他のチームが製品を使用しています。そのため、デフォルトでは、フローティング ライセンスはどのユーザーにも割り当てられていません。ライセンス管理者（お客様側の担当者）がユーザーに割り当てる必要があります。

以下は、製品を購入後に**ライセンス管理者**が行う手順です。

1. SmartBear アカウントを持っていない場合は、作成する必要があります。作成手順は簡単です。評価版の申し込み時、または製品の購入時に SmartBear アカウントが作成され、アカウントの作成を完了するためのリンクが記載されたメールが送信されています。このリンクをクリックして、SmartBear License Management ポータルでアカウントのパスワードを設定してください。

SmartBear アカウントを持っている場合は、SmartBear License Management ポータル (<https://manage.smartbear.com>) にログインします。

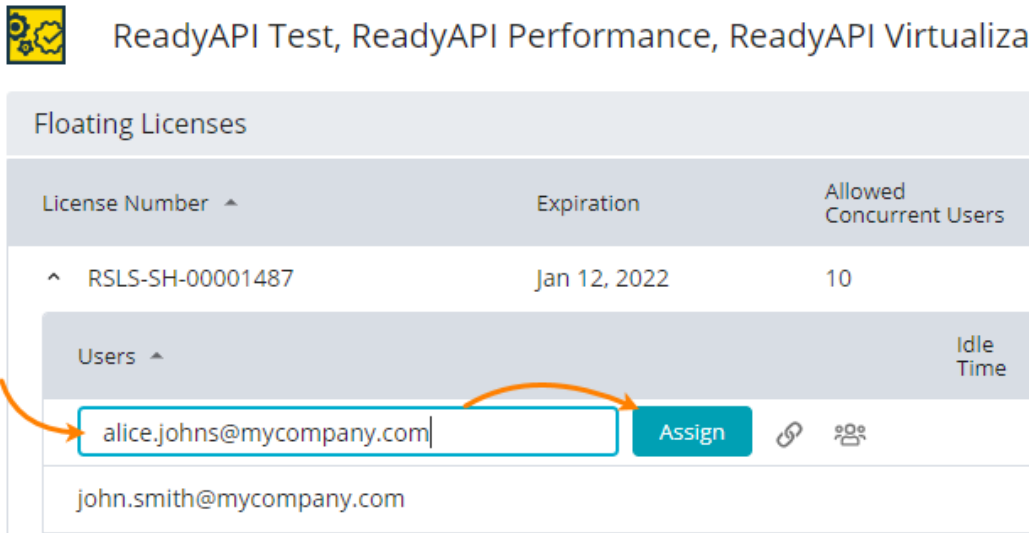
2. ユーザーにライセンスを割り当てます。以下のいずれかの方法で割り当てることができます。
 - [1 人のユーザーにライセンスを割り当てる](#)
 - [リンクを使用してライセンスを共有する](#)
 - [一括割り当て](#)

ライセンス シートを複数のユーザーに割り当てる最も簡単な方法は、リンクを使用してライセンスを共有することです。一括割り当ては、SmartBear アカウントを持っているユーザーにライセンス シートをすばやく割り当てることができます。

必要に応じて、ライセンス管理者はいつでもフローティング ライセンスを別のユーザーに再割り当てすることができます

■ オプション 1: 1 人のユーザーにライセンスを割り当てる

- ① ポータルで製品とライセンスを見つけます。
- ② ユーザーのメール アドレスを入力して **[Assign]** をクリックします (このボタンは有効なメール アドレスを入力するまで無効です)。



- ③ ポータルは、指定されたメール アドレスに SmartBear アカウントが紐付けられているか確認します。
 - アカウントが見つかった場合は、割り当ての確認メッセージが表示されます。確認すると、ライセンスが割り当てられたことを通知するメールがユーザーに送信されます。
 - アカウントが見つからない場合は、ユーザーを招待するように求めるメッセージが表示されます。

Invite a User

alice.johns@mycompany.com is not a member of your organization

Inviting this user will:

- assign a license to the user;
- invite the user to your organization.

Cancel

Invite User

[Invite User] をクリックします。

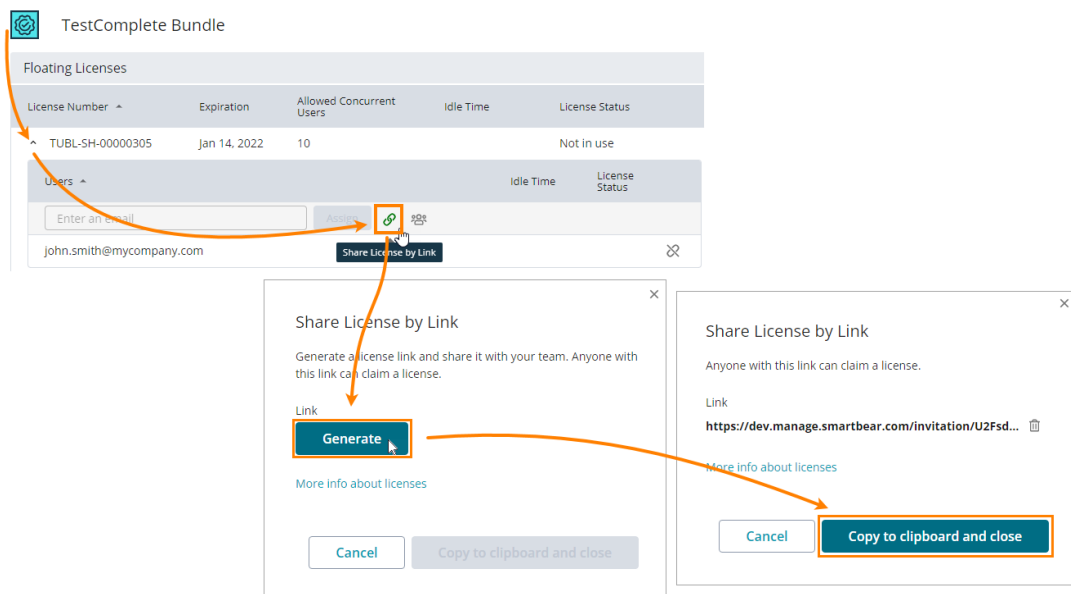
ポータルは、指定されたメール アドレスで新しい SmartBear アカウントを作成し、アカウントの作成を完了するように求めるメッセージをユーザーに送信します。アカウントの作成を完了すると、作成したアカウントを使用して SmartBear 製品をダウンロード、インストール、実行することができます。

複数のユーザーにライセンスを割り当てる必要がある場合は、上記の手順を繰り返すか、以下の「一括割り当て」、または「リンクを使用してライセンスを共有する」の手順を実行します。

■ オプション 2: リンクを使用してライセンスを共有する

この方法を使用すると、SmartBear アカウントの有無に関係なく、チーム メンバーとすばやくライセンスを共有できます。

- ① SmartBear License Management ポータルで製品とライセンスを見つけて、🔗 **[Share License by Link]** をクリックします。
- ② 表示されるダイアログ ボックスで、**[Generate]** をクリックしてライセンスの URL を取得し、この URL をクリップボードにコピーします。



- ③ ライセンスを割り当てるユーザーに URL を送ります。ユーザーは URL を使用してライセンス シートを取得します (次のステップを参照)。

リンクは、SmartBear アカウントをすでに持っているユーザーにも、持っていないユーザーにも送ることができます。

ユーザーはライセンス URL を受け取ったら、ブラウザで開き、画面の指示に従ってください。

- SmartBear License Management ポータルへのログインが必要です。SmartBear アカウントを持っていない場合は、ログイン フォームから作成する必要があります。
- ライセンスの承諾を求めるメッセージが表示されます。ライセンスを使用するには、**[Accept?]** をクリックして承諾する必要があります。

Hi Alice.

You are entitled to use the following license:

TUBL-SH-00000305

TestComplete Bundle License


Valid from Jan 14, 2021 till Jan 14, 2022

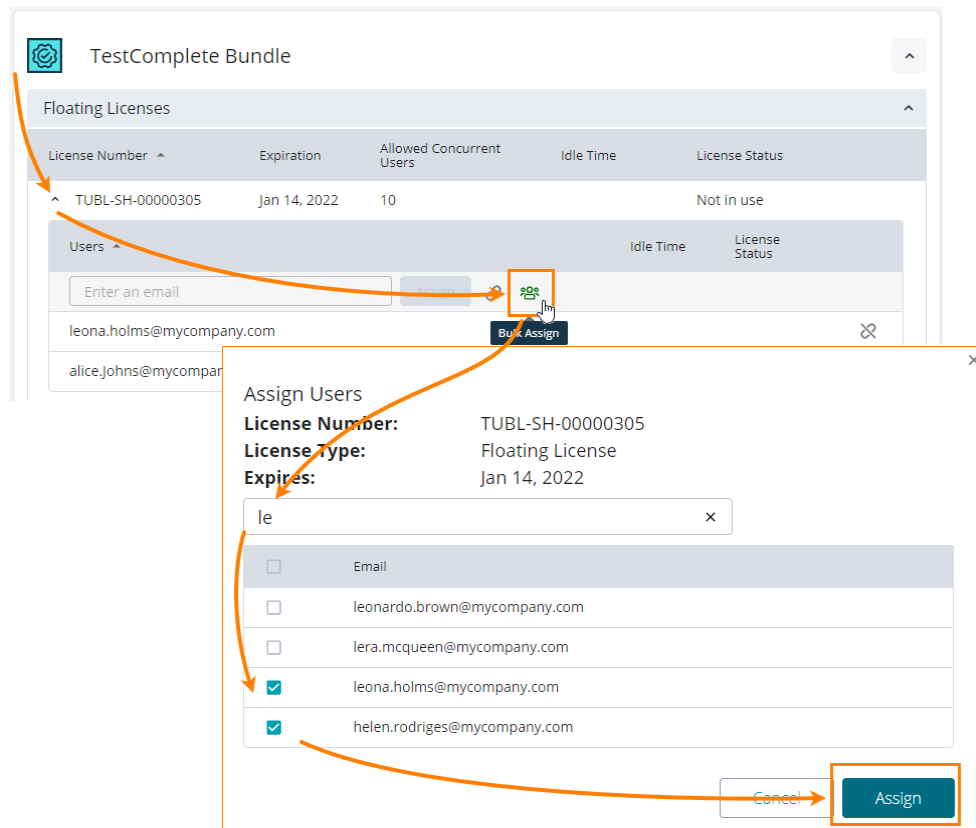
Accept?

Cancel

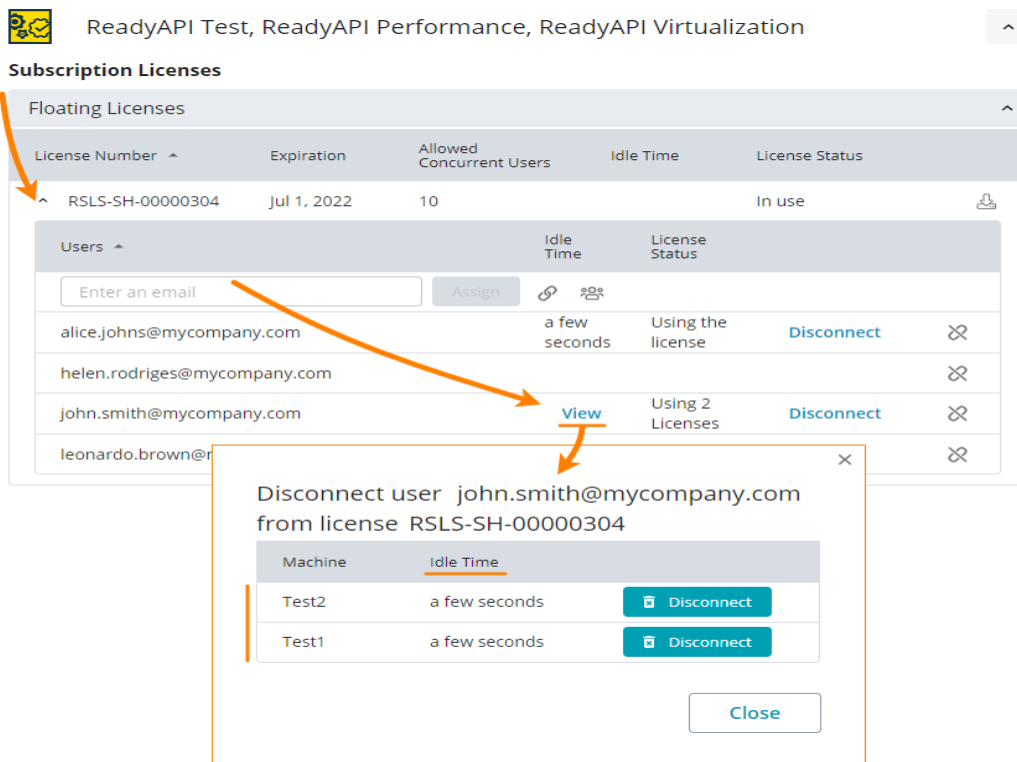
■オプション 3: 一括割り当て

この方法を使用すると、SmartBear アカウントを持っているユーザーにライセンス シートを割り当てることができます。


- ① ポータルで製品とライセンスを見つけて、 **[Bulk Assign]** をクリックします。
- ② 表示されるダイアログで、ユーザー アカウントを選択し、ユーザーのメール アドレスの横にあるチェックボックスをオンにし、**[Assign]** をクリックします（このボタンは有効なメール アドレスを入力するまで無効です）。

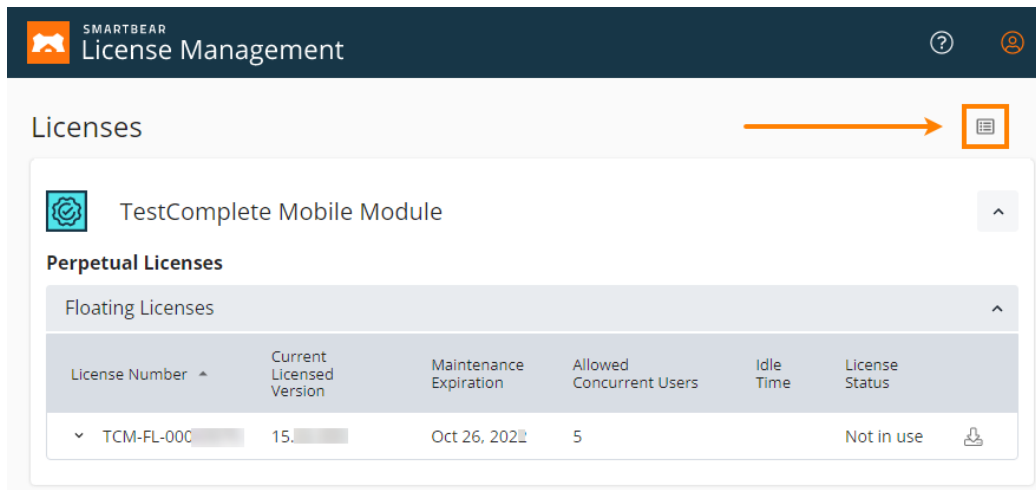


ユーザーが 2 台以上のマシンでライセンスを使用している場合、ポータルには使用しているマシンの情報が表示されます。

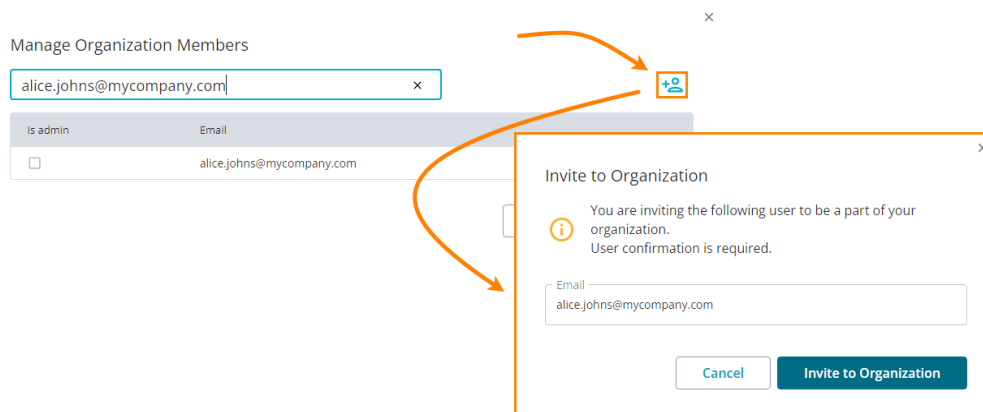


3. 必要に応じて、招待メールを再送することができます。招待メールを再送するには、以下の操作を行います。

- ① ポータルにログイン後、画面上部にある  **[Manage Organization Members]** をクリックします。



- ②  **[Invite to Organization]** をクリックします。



- ③ ユーザーのメールアドレスを再入力して、**[Invite to Organization]** ボタンをクリックします。招待メールが送信されると、通知が表示されます。


3.3.2. ライセンスを使用する (ライセンス ユーザーが行う手順)

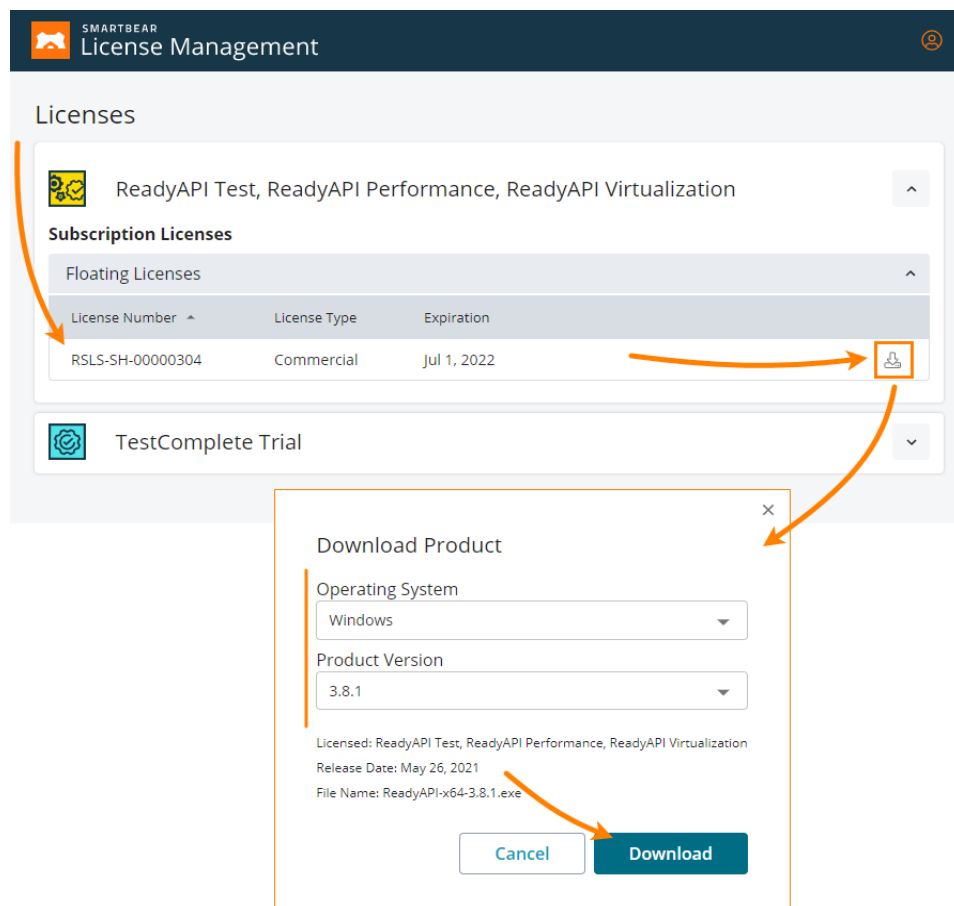
以下は、**ライセンスを使用するユーザー**が行う手順です、

1. まだ SmartBear アカウントを持っていない場合は、SmartBear License Management ポータル (<https://manage.smartbear.com>) で **SmartBear アカウントを作成**します。

ライセンス管理者はライセンスを割り当てる際に、ユーザーのメール アドレスを指定します。ライセンス管理ツールは、このメール アドレスに SmartBear アカウントが紐づけられているかどうかを確認します。アカウントが見つからない場合は、アカウントを作成し、アカウントの作成を完了するように求めるメールをユーザーに送信します。

2. **SmartBear 製品をマシンにダウンロード**します。

- ① ポータルで製品とライセンスを見つけます。
- ② ライセンス ノードを展開して、ライセンス シートが割り当てられた SmartBear アカウントを見つけます。
- ③  をクリックします。表示されるダイアログで、ダウンロードする製品バージョンを選択し、[Download] をクリックします。



3. ダウンロードしたパッケージを使用して、**製品をインストール**します。

マシンは、以下の SmartBear ライセンス サーバーに接続する必要があります。

- o `https://manage.smartbear.com:443`
- o `https://api.slm.manage.smartbear.com:443`
- o `https://api.id.smartbear.com:443`
- o `https://id.smartbear.com:443`

ネットワークで動作しているプロキシやファイアウォールが、このサーバーへの接続を許可している必要があります。ネットワーク管理者にプロキシやファイアウォールの設定を依頼してください。

デフォルトでは、製品の起動時と実行時に SmartBear ライセンス サーバーへのアクセスが必要になります。必要に応じて、インターネットに接続されていないプライベート ネットワークで利用することも可能です。詳しくは、[SmartBear または販売代理店](#)にお問い合わせください。

4. **製品を実行**します。製品の起動時に SmartBear アカウントを指定するように求められたら、アカウントのメール アドレスとパスワードを入力してください。製品は SmartBear ライセンス サーバーに接続し、ライセンス取得します。

SmartBear 製品を終了するとライセンスが解放され、プール内の他のユーザーが利用できるようになります。

3.3.3. ライセンスを解放する (ライセンス管理者が行う手順)

ユーザーが製品を使用していないにもかかわらず、ライセンス シートを消費している可能性は十分にあります。例えば、製品を終了するのを忘れて帰宅した場合などです。この場合、ライセンス管理者は、ユーザーのライセンス シートを解放し (ユーザーをライセンス サーバーから切断し)、他のユーザーがライセンスを利用できるようにすることができます。次の操作を行います。

1. ポータルで製品とライセンスを見つけます。
2. **[License status]** と **[Idle time]** を確認します。

[License status] はライセンスが使用中かどうかを示し、**[Idle time]** はライセンスが使用されていない期間をレポートします。

ReadyAPI Test, ReadyAPI Performance, ReadyAPI Virtualization

Subscription Licenses

Floating Licenses

License Number	Expiration	Allowed Concurrent Users	Idle Time	License Status
^ RSLs-SH-00000304	Jul 1, 2022	10		In use
Users <input type="text" value="Enter an email"/> <input type="button" value="Assign"/>			Idle Time License Status	
alice.johns@mycompany.com			a few seconds	Using the license
helen.rodriques@mycompany.com				
john.smith@mycompany.com			an hour	Using the License
leonardo.brown@mycompany.com				

3. ライセンスが使用されていないことを確認したら、**[Disconnect]** をクリックしてライセンスを解放します。

ReadyAPI Test, ReadyAPI Performance, ReadyAPI Virtualization

Subscription Licenses

Floating Licenses

License Number	Expiration	Allowed Concurrent Users	Idle Time	License Status
^ RSLs-SH-00000304	Jul 1, 2022	10		In use
Users <input type="text" value="Enter an email"/> <input type="button" value="Assign"/>			Idle Time License Status	
alice.johns@mycompany.com			a few seconds	Using the license
helen.rodriques@mycompany.com				
john.smith@mycompany.com			an hour	Using the License
leonardo.brown@mycompany.com				

4. ユーザーが 2 台以上のマシンでライセンスを使用している場合、切断するマシンを指定するように求めるダイアログが表示されます。

The screenshot shows the 'Subscription Licenses' section in the SmartBear interface. A table lists floating licenses, with one license (RSL5-SH-00000304) in use. Below the license table, a list of users is shown. The user 'john.smith@mycompany.com' is highlighted, and a 'Disconnect' button is visible next to their name. An orange arrow points from this button to a modal dialog box.

The modal dialog box is titled 'Disconnect user john.smith@mycompany.com from license RSL5-SH-00000304'. It contains a table with two columns: 'Machine' and 'Idle Time'. The table lists two machines: 'Test2' and 'Test1', both with an idle time of 'a few seconds'. Each machine has a 'Disconnect' button next to it. An orange arrow points from the text 'Select the machine to disconnect' to the 'Disconnect' button for 'Test1'.

Below the table in the dialog is a 'Close' button.

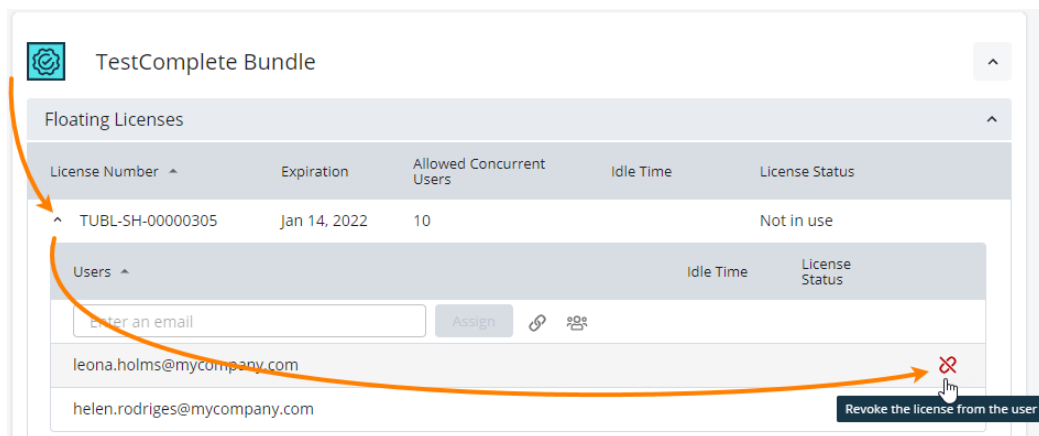
! **ライセンスの解放（ユーザーの切断）とライセンスの取り消しは異なります。** 解放（切断）は、ユーザーによるライセンスの使用を終了するだけで、割り当てリスト（つまり、製品を利用可能なユーザーのリスト）から削除するものではありません。取り消しは、ユーザーを割り当てリストから削除します。

! フローティング ライセンスの場合、SmartBear 製品を終了するとライセンスが解放され、プール内の他のユーザーが利用できるようになります。

3.3.4. ライセンスを取り消す (ライセンス管理者が行う手順)

ユーザーがライセンスを必要としなくなった場合、ライセンスを取り消すことができます。

1. ライセンス管理ポータルで、取り消す製品とライセンスを見つけて、ライセンス ノードを展開します。
2. リストからユーザー アカウントを見つけます。[License status] と [Idle time] をチェックして、ユーザーが製品を使用していないことを確認します。
3. ✕ をクリックして、ユーザーのライセンスを取り消します。



取り消したライセンスは別のユーザーに割り当てることができます。

! ライセンス管理者は、いつでも、何回でもフローティング ライセンスを取り消すことができます。使用期間や取り消し回数に制限はありません。

3.4. オフラインの固定ユーザー ライセンス

製品を購入した時点では、**固定ユーザー** ライセンスは**オンライン**であり、Web 上の **SmartBear ライセンス サーバー**によって管理されます。ライセンスをプライベート ネットワークで使用するには、**SmartBear License Management** で**オフライン**に変換する必要があります。その後、SmartBear 製品がインストールされたマシンでアクティベートできます。オフライン ライセンスはマシンにバインドされ、製品のライセンス サブシステムによって管理されます。ここでは、変換とアクティベーションの手順を説明します。

このセクションでは、オフラインの固定ユーザー ライセンスに関する以下のトピックについて説明します。

- **必要条件**
- **ライセンスをオフラインに変換する**
- **オフライン ライセンスを割り当てる**
- **ライセンスのアクティベーションを完了する**
- **オフライン固定ユーザー ライセンスを解放する**
- **オフライン固定ユーザー ライセンスをオンラインに変換する**

! **固定ユーザー ライセンスは、仮想環境では利用することはできません。**

Hyper-V が有効化されている場合、その端末は SLM からは仮想環境として認識され、TestComplete を利用することができないためご注意ください。

3.4.1. 必要条件


- ライセンス ユーザー (SmartBear 製品の使用者) が手順を実行する場合、いくつかの手順の実行には、ライセンス管理者のサポートが必要です。
- この手順では、SmartBear License Management とデータをやり取りするため、インターネットに接続されたマシンが必要です。

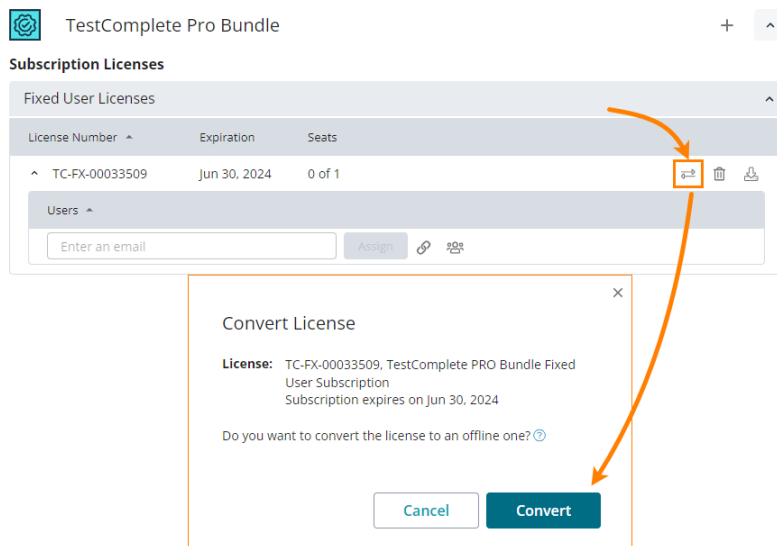
3.4.2. ライセンスをオフラインに変換する

1. デフォルトでは、ライセンスの変換は無効に設定されています。この機能を有効にするには、**SmartBear または販売代理店**にご連絡ください。データベースを更新し、変換機能を有効にします。

! **変換を行うには、ライセンスにユーザーが割り当てられていない状態でなければなりません。**
変換をリクエストする前に、すべてのユーザーの割り当てを解除してください。

2. SmartBear 側で処理が完了し、通知を受け取ったら、**ライセンス管理者のアカウント**で SmartBear License Management (<https://manage.smartbear.com>) にログインします。

変換するライセンスの  **[Convert License]** ボタンをクリックし、表示されるメッセージで **[Convert]** をクリックします。



3.4.3. オフライン ライセンスを割り当てる

ライセンスをオフラインに変換したら、ユーザーに割り当てることができます。割り当て手順には、ライセンスユーザーが行う操作とライセンス管理者が行う操作があります。

■ライセンス ユーザーの手順

1. SmartBear 製品をインストールして実行します。
2. 製品を起動すると、自動的にライセンスがアクティベートされます。製品によっては、ダイアログボックスが表示されます。詳細は、SmartBear 製品のドキュメントを参照してください。
 - [TestComplete ドキュメント](#)
 - [ReadyAPI ドキュメント](#)
3. 製品を実行しているマシンのフィンガープリント データが生成されます（このデータには、マシンのハードウェア コンポーネントに関する情報が含まれています）。

フィンガープリント データをコピーして、ライセンス管理者に渡してください。

! 注意

TestComplete の場合は、フィンガープリントの取得からモジュールのアクティベートまでの手順は、必ず Platform および各モジュールごとに別々に行ってください。

例えば、Platform のフィンガープリントを取得後に、同じフィンガープリントを使用してモジュールのアクティベートの手続きを実行するとライセンスが利用不能になります。

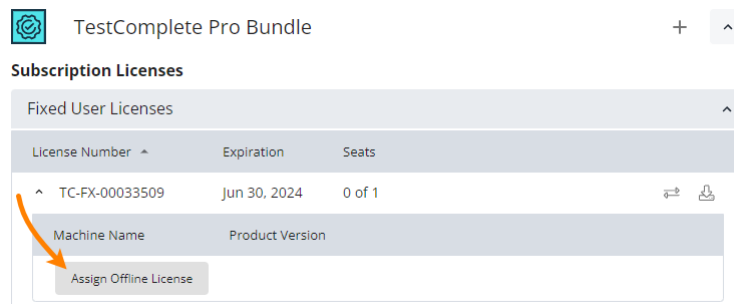
Desktop モジュールのフィンガープリントを Web モジュールに適用する場合なども利用不能になります。

1 つのモジュールをアクティベート後、改めてフィンガープリントを取得して次のモジュールをアクティベートする必要があります。

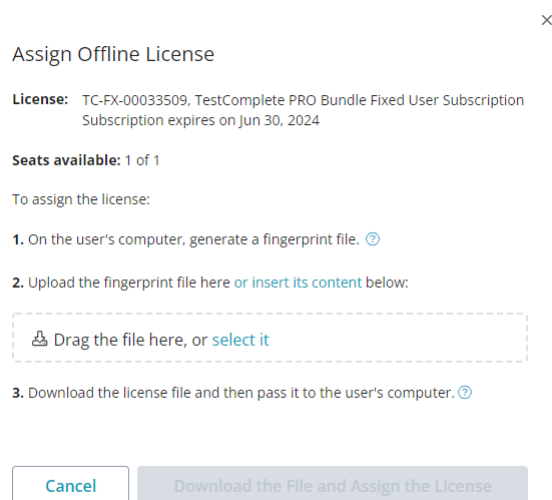
複数のライセンスを保有されている場合も、ライセンスごとに行う必要があります。

■ライセンス管理者の手順

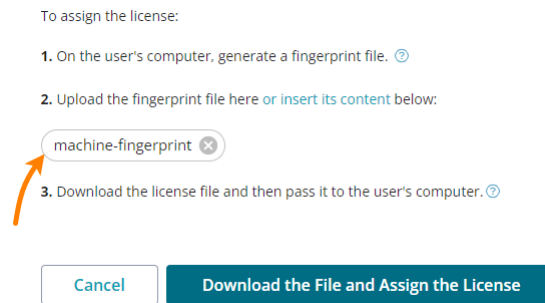
1. SmartBear License Management にログインし、ライセンスを見つけて、[Assign Offline License] をクリックします。



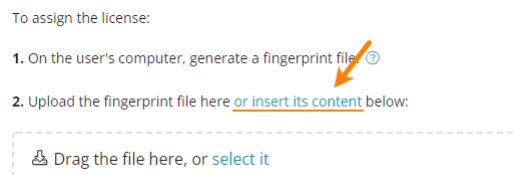
以下のダイアログ ボックスが表示されます。



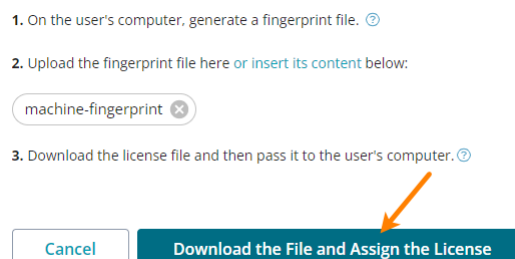
2. このダイアログで、ユーザーから受け取ったフィンガープリント ファイルをアップロードするか、その内容をダイアログに挿入してください。



! 内容を挿入する場合は、**[insert its content]** リンクをクリックします。



3. フィンガープリント データをアップロードすると、ライセンス データを含むファイルが生成されます。



[Download License File] をクリックしてライセンス ファイルを取得し、ライセンス ユーザーに渡します。

3.4.4. ライセンスのアクティベーションを完了する

ユーザーのマシンにライセンス ファイルを取り込み、アクティベートします。

詳細は、製品のドキュメントを参照してください。

注意:

- 固定ユーザー ライセンスに複数のシートがある場合、シートごとにこの手順を繰り返してライセンスを割り当てます。

- アクティベートしたオフライン ライセンス (ライセンス シート) はユーザーのマシンにバインドされます。ライセンスを別のマシンに移動するには、まず現在のマシンでライセンスを解放する必要があります。この手順は、「・」を参照してください。

オフラインの固定ユーザー ライセンスの操作について紹介した動画を[こちら](#)からご覧いただけます。

3.4.5. オフライン固定ユーザー ライセンスを解放する

オフライン固定ユーザー ライセンスをアクティベートすると、**SmartBear ライセンス サーバー**はライセンスをマシンにバインドします。このライセンスは、別のマシンで使用することはできません。別のマシンに移動する場合、まずライセンス ユーザーが現在のマシンのライセンスを解放し、次にライセンス管理者が Web 上の **SmartBear ライセンス サーバー**で操作を行う必要があります。

1. ライセンス ユーザーの手順: ユーザー マシンでライセンスを解放します。

SmartBear 製品がインストールされているマシンを起動します。製品を起動して、製品のダイアログ ボックスとウィザードを使用してライセンスを解放します。実際の手順は、製品によって異なります。詳細は、製品のドキュメントを参照してください。

- [TestComplete ドキュメント](#)
- [ReadyAPI ドキュメント](#)

この手順を実行すると、以下の処理が行われます。

- マシンからライセンス データが削除されます。
- マシンとライセンスの情報を含む**フィンガープリント ファイル**が生成されます。

このフィンガープリント ファイルをライセンス管理者に渡してください。その後、製品をアンインストールできます。

注意

TestComplete の場合は、フィンガープリントの取得からモジュールのディアクティベートまでの手順は、必ず Platform および各モジュールごとに別々に行ってください。

例えば、Platform のフィンガープリントを取得後に、同じフィンガープリントを使用してモジュールのディアクティベートの手続きを実行するとライセンスが利用不能になります。

Desktop モジュールのフィンガープリントを Web モジュールに適用する場合なども利用不可になります。

1 つのモジュールをディアクティベート後、改めてフィンガープリントを取得して次のモジュールをディアクティベートする必要があります。

複数のライセンスを保有されている場合も、ライセンスごとに行う必要があります。

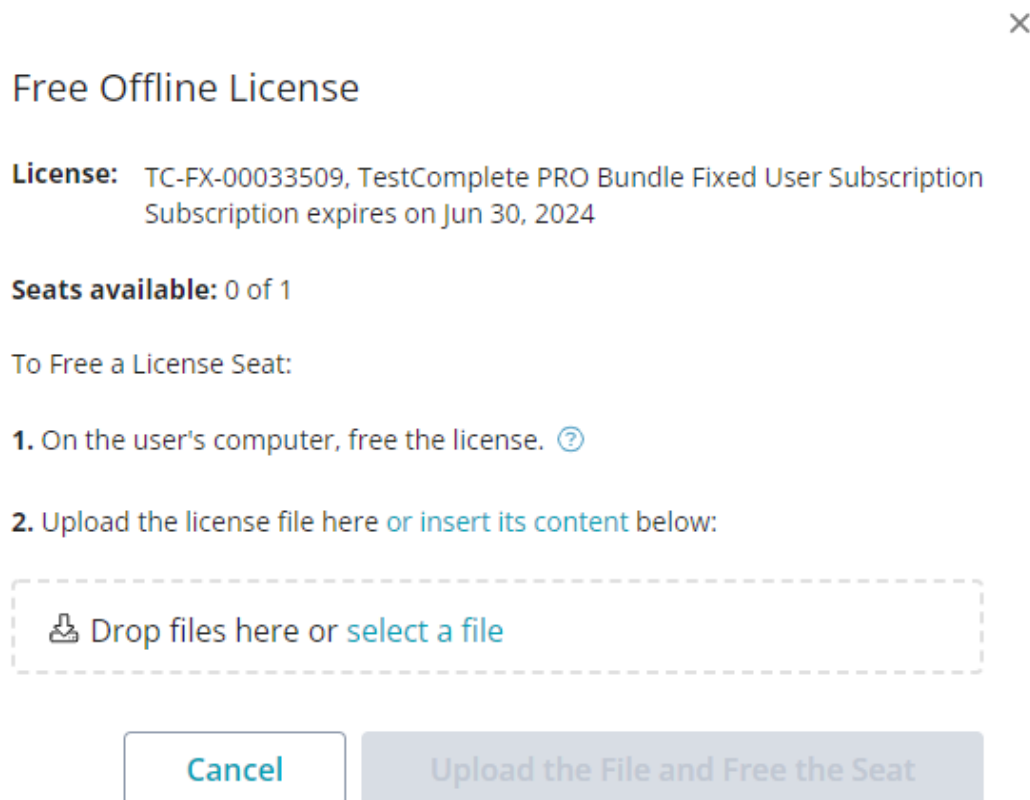
2. ライセンス管理者の手順: ポータルでライセンスを解放します。

Web 上の SmartBear License Management で作業するので、インターネットにアクセス可能なマシンが必要です。

- ① SmartBear License Management (<https://manage.smartbear.com>) にライセンス管理者としてログインします。
- ② ポータルでオフライン固定ユーザー ライセンスを見つけて、📄 **[Free Offline License]** をクリックします。



以下のダイアログ ボックスが表示されます。



- ③ ダイアログで、ライセンス ユーザーから受け取ったフィンガープリント ファイルをアップロードするか、その内容を挿入して、**[Upload the file and free the seat]** ボタンをクリックします (このボタンは、有効なフィンガープリント データをアップロードまたは挿入すると有効になります)。

Free Offline License

License: TC-FX-00033509, TestComplete PRO Bundle Fixed User Subscription
Subscription expires on Jun 30, 2024

Seats available: 0 of 1

To Free a License Seat:

1. On the user's computer, free the license. ?
2. Upload the license file here or insert its content below:

machine-fingerprint


これにより、SmartBear ライセンス サーバー上のライセンス データベースが更新されます。

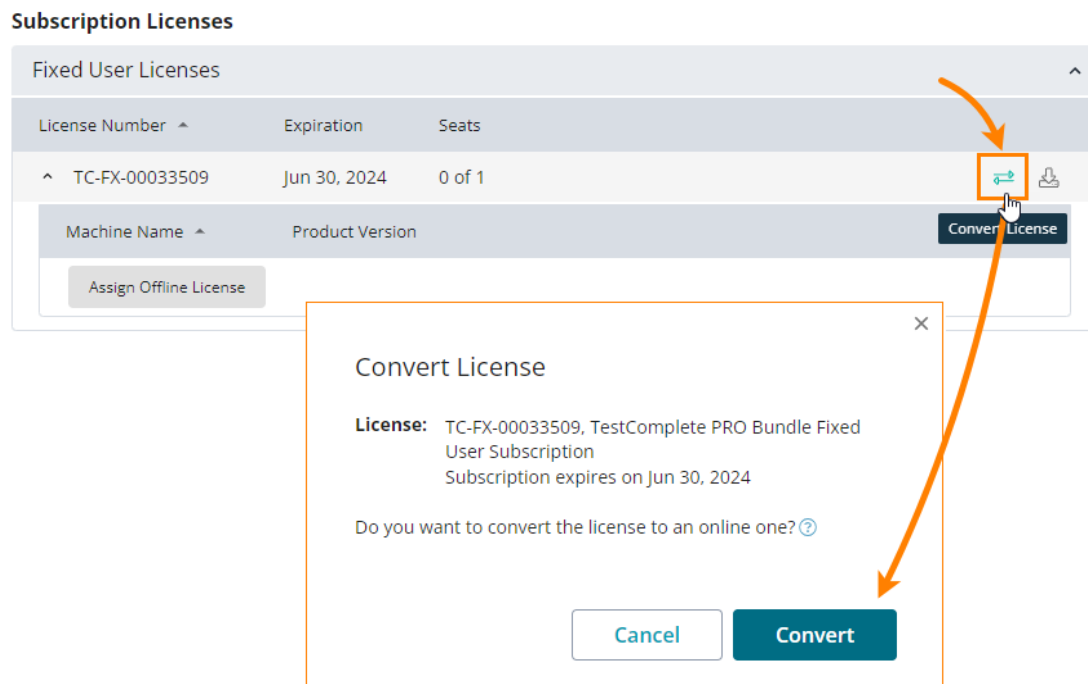
! 固定ユーザー ライセンスに複数のシートがある場合は、シートごとにこの手順を繰り返してライセンスを解放する必要があります。

これで、SmartBear 製品を別のマシンにインストールして、固定ユーザー ライセンスをアクティベートできます。

3.4.6. オフライン固定ユーザー ライセンスをオンラインに変換する

! オフライン固定ユーザー ライセンスをオンラインに変換するには、すべてのライセンス シートの割り当てが解除されていなければなりません。

すべてのシートの割り当てを解除してから、オフライン固定ユーザー ライセンスの  **[Convert License]** をクリックし、表示される変換の確認メッセージで **[Convert]** をクリックします。



3.5. オフライン フローティング ライセンス

製品を購入した時点では、**フローティング** ライセンスは Web 上の **SmartBear ライセンス サーバー**によって管理されています。このようなライセンスをオンライン ライセンスと呼びます。


フローティング ライセンスをプライベート ネットワークで使用するには、ネットワークにオンプレミス ライセンス サーバーをインストールし、このサーバーにライセンスをエクスポートしてアクティベートする必要があります。

アクティベート後、ライセンスはお客様側のオンプレミス ライセンス サーバーによって管理されます。このようなライセンスをオフライン ライセンスと呼びます。ライセンス シートの割り当てと解放には、オンプレミス ライセンス ポータルを使用します。いつでもライセンスを取り消して、**オンライン** ライセンスに戻すことができます。

オンプレミス ライセンス サーバーの導入を決定する前に、設定を調整することで **SmartBear ライセンス サーバー**への接続を許可できないか、ライセンス管理者に相談することを推奨します (URL とオープンにするポートについては上記のリンクを参照)。SmartBear 製品は、これらの URL にライセンス固有の情報のみを送信し、アプリケーションや画面上のデータは転送しません。

ライセンスの仕組み

- オンプレミス ライセンス サーバーは、プライベート ネットワーク上で動作する Web サービスです。プライベート ネットワークで動作する SmartBear 製品は、本サーバーに接続して、ライセンス シートが利用可能かどうかを確認します。
- サーバーの設定と操作は、Web インターフェイスから行います。
- オンプレミス ライセンス サーバーは、フローティング ライセンスでのみ利用できます。固定ユーザー ライセンスは、SmartBear 製品によってアクティベートされ管理されます。
- 本サーバーは、LDAP を介してネットワーク ドメインからユーザー アカウント情報を取得します。任意のユーザー アカウントを追加する機能は備えていません。

 ネットワーク ドメインからユーザー アカウントの取得が必要な場合は、**LDAP 設定**の設定が必要になります。

ユーザー アカウントの取得が不要な場合は、LDAP の設定は不要です。その場合、すべてのユーザーが「anonymous.user」として表示されます。

- オンプレミス ライセンス サーバーに接続された SmartBear 製品を使用するには、エンド ユーザーはユーザー識別名とパスワードを指定する必要があります。

サーバーの特定の設定により、ユーザーのオペレーティング システム アカウントによる認証を可能にすることもできます。

このセクションでは、オフラインのフローティング ライセンスに関する以下のトピックについて説明します。

- [必要条件](#)
- [オフライン ライセンスをリクエストする](#)
- [オンプレミス ライセンス サーバーをダウンロードする](#)
- [オンプレミス ライセンス サーバーをインストールする](#)
- [オンプレミス ライセンス サーバーを設定する](#)
 - [\[Settings\] ダイアログ](#)
 - [HTTPS の設定](#)
- [オンプレミス サーバーのセキュリティについて](#)
 - [Cookie とユーザー セッション情報の保存](#)
- [ライセンスを追加する](#)
- [ライセンスをユーザーに割り当てる](#)
- [ライセンスの解放と取り消し](#)
 - [必要条件](#)
 - [ライセンスを解放する \(ユーザーを切断する\)](#)
 - [ライセンスを取り消す](#)
- [ライセンスを返却する](#)
- [ヘッドレス テストでライセンスを使用する](#)

3.5.1. 必要条件

- オンプレミス ライセンス サーバーは、ほとんどのマシンで動作する軽量なアプリケーションです。特別なシステム要件はなく、Windows と Linux のどちらでも動作します。
- 本サーバーは、Web インターフェイスを備えているため、設定には Web ブラウザー (Chrome、Edge、Firefox、Opera、または Safari) が必要です。
- 本サーバーは、SmartBear ライセンス サーバーへの接続を必要としません。ただし、ライセンスの追加や解放には、ライセンス管理ポータルとのやり取りが必要になるため、ポータルにアクセスできるマシンが必要です。
- オンプレミス ライセンス サーバーは、ライセンスの追加に必要なマシン データを含むサーバーフィンガープリント ファイルを生成します。このファイルには、以下のデータが含まれます。
 - クライアント マシンの名前と MAC アドレス
 - オペレーティング システムのユーザー名と ID
 - オンプレミス ライセンス サーバーのバージョン
 - 関連する SmartBear 製品の ID
 - システムの起動時間とセッション ID

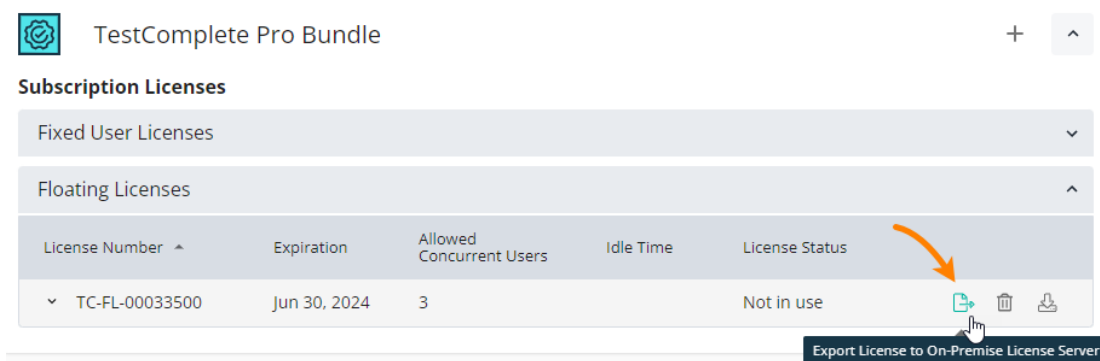
このファイルは、Base64 でエンコードされています。必要に応じて、デコードして内容を調べることができます。[こちらの Web サイト](#)で Base64 形式のファイルをデコードできます。

3.5.2. オフライン ライセンスをリクエストする

デフォルトでは、オフライン ライセンスとオンプレミス ライセンス サーバーは無効に設定されています。これらの機能を有効にするには、[SmartBear または販売代理店](#)にご連絡ください。データベースを更新し、変換機能を有効にします。

! 変換を行うには、ライセンスにユーザーが割り当てられていない状態でなければなりません。変換をリクエストする前に、すべてのユーザーの割り当てを解除してください。

SmartBear 側で処理が完了し、通知を受け取ったら、続行します。機能が有効になると、ライセンス管理ポータルにフローティング ライセンスの **[Export License ...]** ボタンが表示されます。



3.5.3. オンプレミス ライセンス サーバーをダウンロードする

オンプレミス ライセンス サーバーのインストーラーをダウンロードするには、次のいずれかの操作を行います。

- **オプション 1:** [SmartBear License Management ダウンロード センター](#)からダウンロードします。
- **オプション 2:** SmartBear License Management の[フローティング ライセンスのエクスポート](#)に使用するダイアログ ボックスからダウンロードします。

Export License to On-Premise License Server

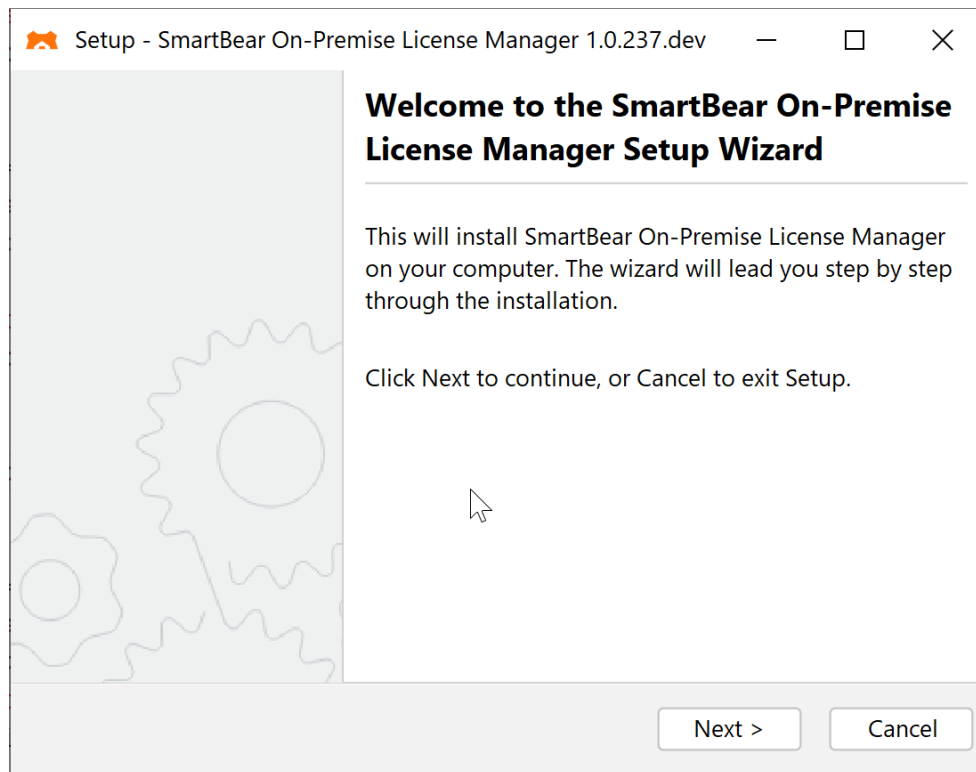
License: TC-FL-00034396, TestComplete PRO Bundle Floating Subscription
 Subscription expires on Jul 31, 2024
 Seats: 3

1. If you don't have the On-Premise License Server in your network, [download](#) and install it.
2. On the On-Premise License Server, click Add License to generate a server fingerprint file.

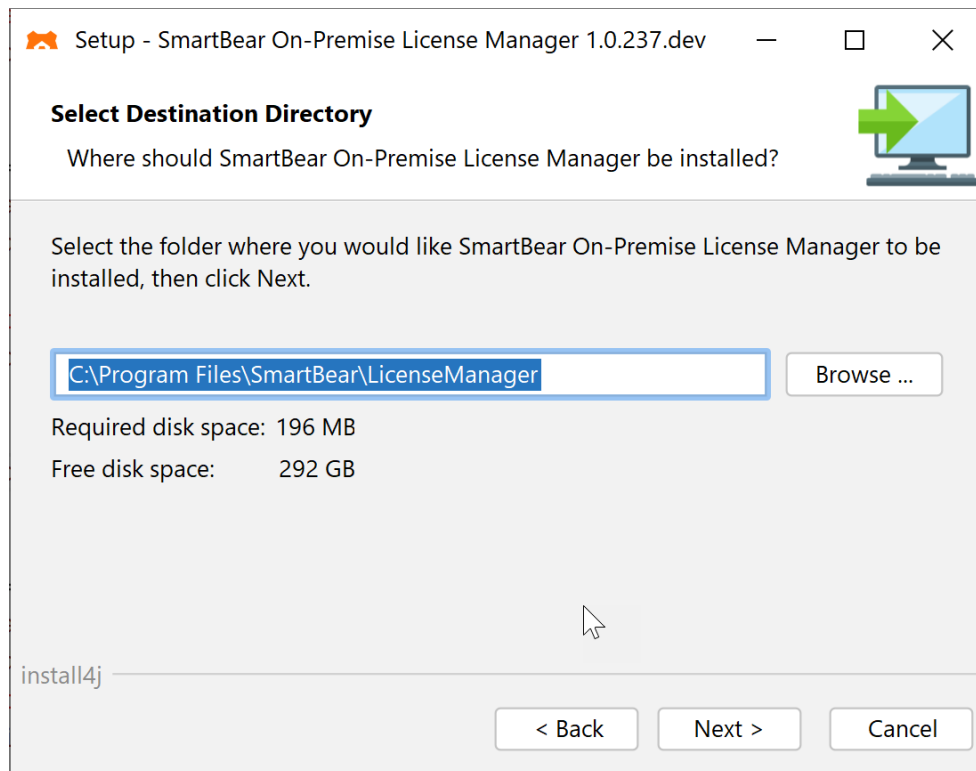
3.5.4. オンプレミス ライセンス サーバーをインストールする

オンプレミス ライセンス サーバーのインストール手順は簡単です。重要なステップは、管理者アカウントのユーザー名とパスワード、およびツールが使用するポート番号の指定です。これらの値はメモしておいてください。

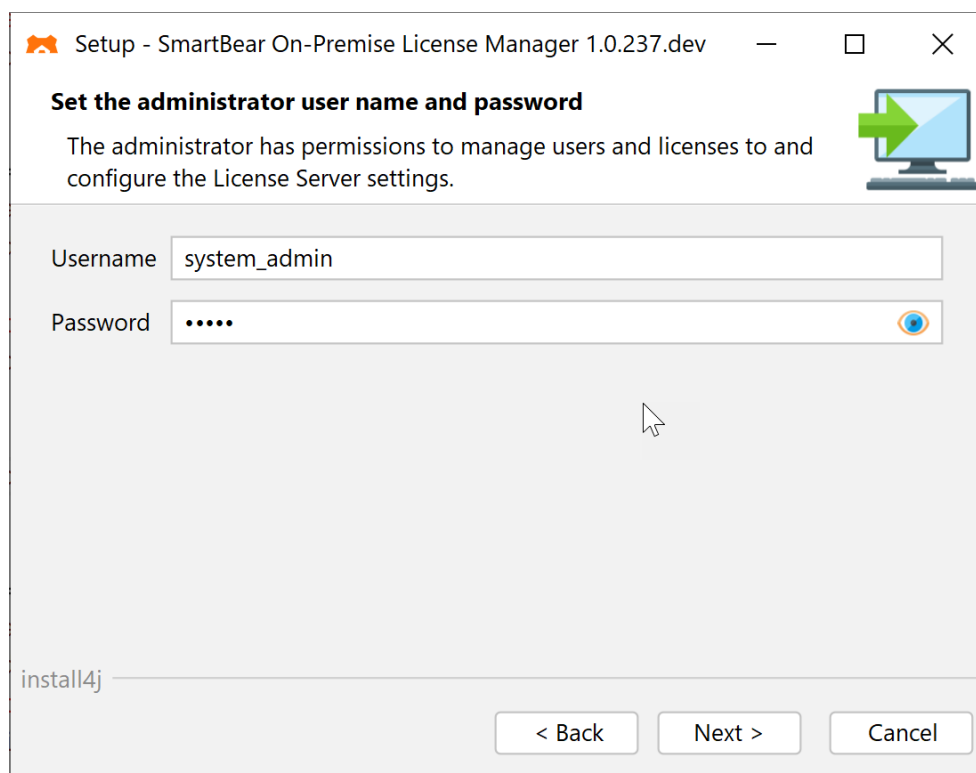
1. ダウンロードしたインストーラーを起動します。最初のページは、インストール手順に関する説明です。[Next] をクリックして開始します。



2. インストール フォルダーを指定し、次のページに進みます。



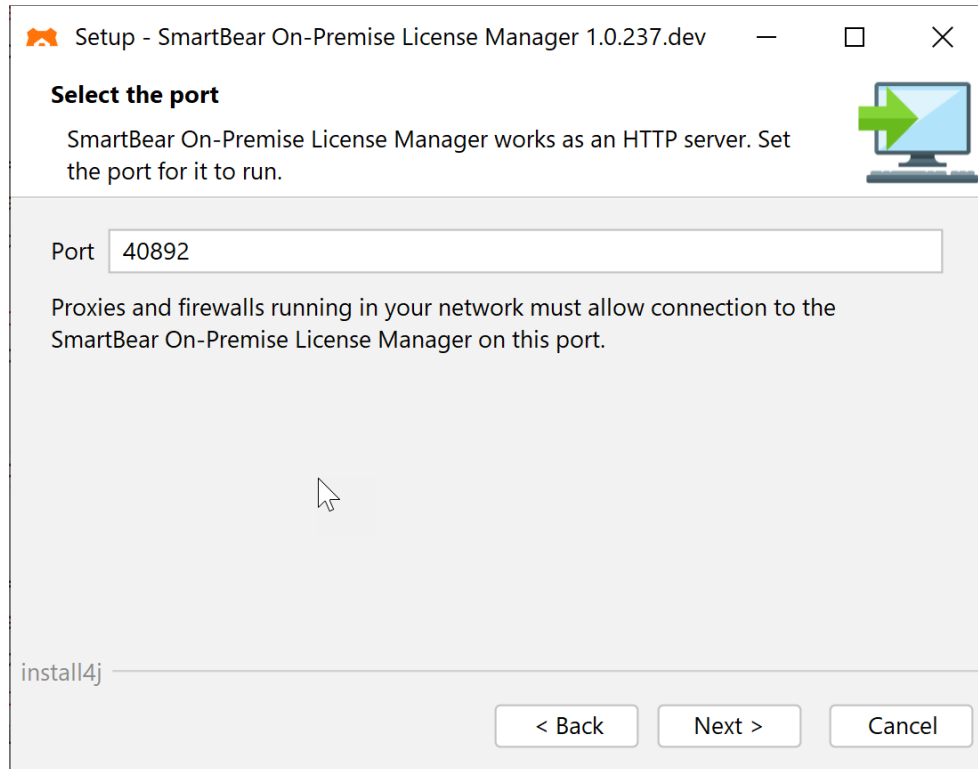
3. ローカルのオンプレミス ライセンス サーバーの管理者アカウントのユーザー名とパスワードを指定します。



! ユーザー名とパスワードはメモしておいてください。後でオンプレミス ライセンス サーバーにログインする際に必要になります。

次のページに進みます。

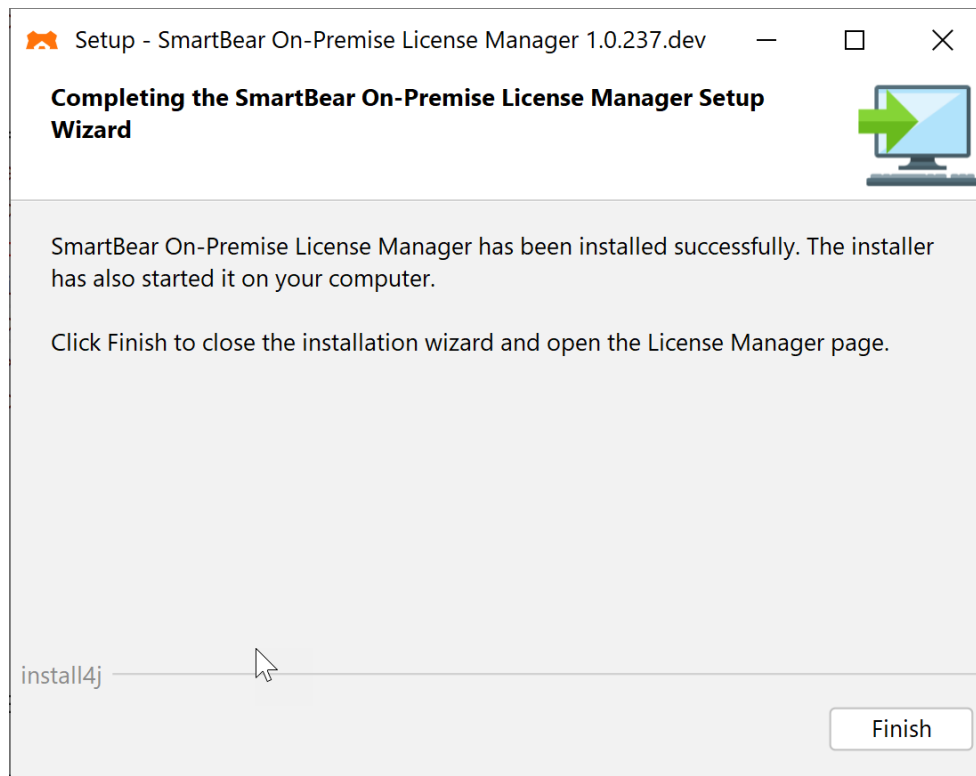
4. ライセンス マネージャーがクライアントとの通信に使用する HTTP ポートを指定します。ネットワークで動作しているプロキシやファイアウォールは、ライセンス マネージャー マシンのこのポートを通過するトラフィックを許可する必要があります。デフォルト値は 40892 です。



! ポート番号はメモしておいてください。後でオンプレミス ライセンス サーバーにログインする際に必要になります。

5. ポート番号を指定したら、**[Next]** をクリックしてインストールを開始します。

インストールが完了したら、**[Finish]** をクリックします。



ブラウザでライセンス マネージャーが開きます。

オンプレミス ライセンス サーバーのダウンロードとインストールについて紹介した動画を[こちら](#)からご覧いただけます。

3.5.5. オンプレミス ライセンス サーバーを設定する

3.5.5.1. [Settings] ダイアログ

[Settings] ダイアログでは、ネットワーク内のユーザー アカウント情報の取得方法とユーザー認証方法を指定します。以下の表は、[Settings] ダイアログで設定可能な項目を簡単にまとめたものです。

設定	オンプレミス ライセンス ポータルでライセンス 管理者によるライセンス割り当てが必要	製品の起動時にユーザーによる認証情報 の入力が必要
LDAP	○	○
Kerberos	○	×
Allow for everyone	×	×


[Settings] ダイアログを開くには、以下の操作を行います。

1. オンプレミス ライセンス ポータルをブラウザで開き、[ライセンス サーバーのインストール](#)時に指定した管理者アカウントのユーザー名とパスワードでログインします。

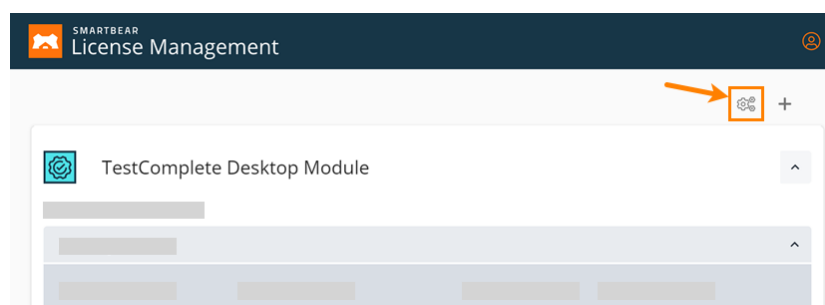
ブラウザでオンプレミス ライセンス サーバーを開くには、以下のコマンドを使用します。

```
<code>license-server-address:port</code>
```

例: `localhost:40892`

2. オンプレミス ライセンス ポータルの右上にある  **[Configure Settings]** をクリックします。

[Settings] ダイアログ ボックスが表示されます。

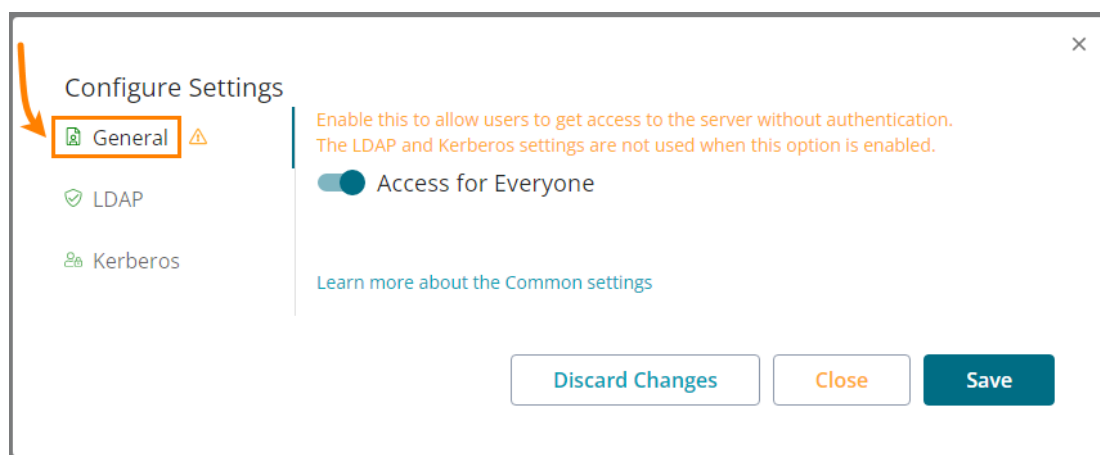


[General]、[LDAP]、[Kerberos] タブがあり、それぞれで設定可能な項目は以下の通りです。

■ [General] タブ

[General] タブには [Access for everyone] という設定しかありません。これを**有効**にすると、ライセンス サーバーは次のように設定されます。

- ネットワーク ドメインに登録されているすべてのユーザーが、すべてのライセンス製品のライセンス シートを利用できるようになります。
- ライセンス管理者が、ライセンス ポータルでユーザーにライセンスを割り当てる必要がなくなります。
- ライセンス管理者が、指定したユーザーのライセンスを取り消すことはできません。
- ユーザーは、認証情報を入力せずにライセンス シートを使用できます。
- ライセンス ポータルですべてのユーザーが anonymous.user として表示されます。



■ [LDAP] タブ

[LDAP] タブの設定は、オンプレミス ライセンス サーバーがユーザー アカウント情報を取得するために接続する LDAP プロバイダーを指定します。LDAP を設定することで、以下が可能になります。

- ライセンス管理者は、ユーザーの識別名 (User DN) により、ライセンス シートを割り当てることができます。
- ライセンス ユーザーは、ユーザー DN とパスワードを入力して、ライセンス シートを使用します。
- チーム メンバーは、それぞれのユーザー DN とパスワードを使用してライセンス ポータルにログインできます。

このタブの入力値は、**ネットワーク管理者に確認してください**。ライセンス サーバーは標準の LDAP アルゴリズムを実装しており、Windows および Linux の LDAP プロバイダーで動作します。

[Test] をクリックして、LDAP プロバイダーへの接続を確認します。接続に失敗した場合は、設定を再確認し、再度テストします。完了したら、変更を保存します。

×

Configure Settings

General

LDAP

Kerberos

The settings will take effect after a successful save.

URL

User DN

Password

Base

User Group DN

Admin Group DN

Close

Test

Save

■ [Kerberos] タブ

ネットワーク上に Kerberos サーバーがある場合、オンプレミス ライセンス サーバーが Kerberos サーバーを介してユーザーを認証するように、**[Kerberos]** タブで設定できます。設定すると、ユーザーは SmartBear 製品を起動するたびに認証情報を指定する必要がなくなります。

このタブの設定値は、ネットワーク管理者に確認してください。

[Test] をクリックして、設定が有効かどうかを確認します。エラーになった場合は、設定を再確認し、再度テストします。完了したら、変更を保存します。

変更の保存/破棄

- **[Save]** ボタンは、ページで何らかの変更を行うと有効になります。
- このボタンは、このページで行った変更のみを保存します。
- ページで設定を変更すると、**[Discard Changes]** ボタンが表示されます（初期状態では、このボタンは非表示です）。このボタンをクリックすると、ページで行ったすべての変更が破棄されます。

3.5.5.2. HTTPS の設定

SmartBear オンプレミス ライセンス サーバーは、標準的な HTTP でリクエストを処理するようにサーバーを設定します。多くの環境では、ネットワークが信頼されているため、これで十分です。しかし、組織によっては、すべてのネットワーク アプリケーションを TLS (Transport Layer Security) または SSL (Secure Sockets Layer) で保護する必要があります。

SmartBear オンプレミス ライセンス サーバーは HTTP over TLS (または HTTPS) をサポートしていますが、これには追加の手動によるサーバー設定が必要です。さらに、HTTP から HTTPS へのリダイレクトを有効にしたり、HTTP Strict Transport Security (HSTS) ポリシーを有効にすることもできます。

以下の手順に従って、HTTPS を設定します。これは、Windows での手順ですが、Linux の手順も同様です。サポートが必要な場合は、[サポート チケットを送信](#)してください。

1. 証明書を取得します。

クライアントへの認証のため、オンプレミス ライセンス サーバーには**証明書**が必要です。証明書には、**認証局 (CA)** 署名証明書と、自己署名証明書の 2 つの形式があります。

■ オプション 1: CA 署名証明書

CA 署名証明書は、自動的に検証でき、人間による検証に依存しないため、よりセキュアです。証明書を提供することで、認証局はあなたの身元を保証します。Web ブラウザーや Java ランタイム環境 (JRE) などのソフトウェア システムには、サーバー証明書が信頼された認証局によって保証されていることを確認するために使用される、信頼された認証局の公開キーが含まれています。

➡ SSL CA 署名証明書を取得するには、DNS ホスト名と一致するサブジェクト代替名 (SAN) を IT 部門の担当者に問い合わせてください。

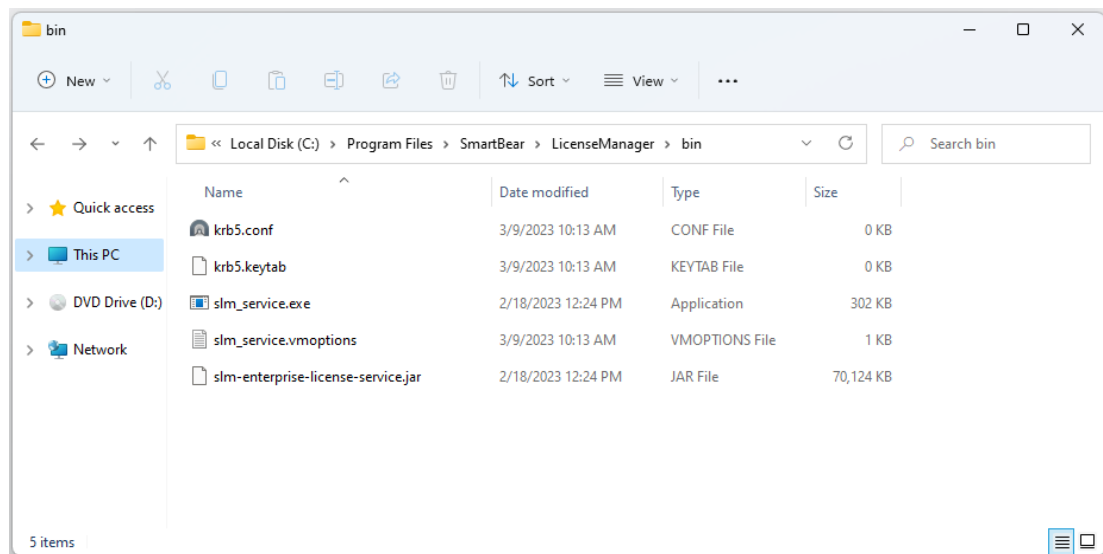
■ オプション 2: 自己署名証明書

自己署名証明書は無料で、簡単に生成できます。ただし、製品から自動的に信頼されないため、信頼済みの接続を確立するには、ブラウザー/システムにインポートする必要があります。

➡ 自己署名証明書を取得するには、次のコマンドを使用します。

注意: 以下の subjectAltName フィールドの値を実際のドメイン名に変更してください。
`openssl req -x509 -sha256 -newkey rsa:2048 -keyout slm.key -out slm.crt
-addext "subjectAltName = DNS:slm.enterprise" -days 365 openssl pkcs12
-export -in slm.crt -inkey slm.key -out slm.enterprise.p12`

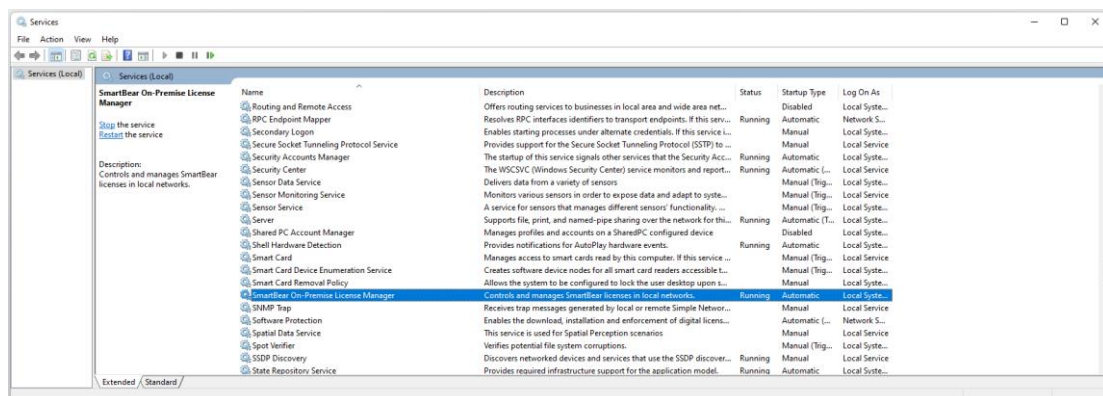
2. ライセンス管理がインストールされているフォルダーを開きます。



3. 証明書ファイル slm.enterprise.p12 を Smartbear/LicenseManager/cert フォルダーにコピーします。
4. Smartbear/LicenseManager/bin/slm_service.vmooptions ファイルを開いて、以下の項目を追加します。

```
-Dserver.port=443
-Dserver.ssl.key-store-type=PKCS12
-Dserver.ssl.key-store=../cert/slm.enterprise.p12
-Dserver.ssl.key-store-password=certificate_store_password
# certificate_store がパスワードで保護されていない場合はオプション
```

5. SLM ライセンス マネージャー サービスを再起動します。



3.5.6. オンプレミス サーバーのセキュリティについて

さまざまなセキュリティの問題とオプションが SmartBear オンプレミス ライセンス サーバーの全体的なセキュリティに影響します。

- **ビルトイン管理者アカウント:** 各オンプレミス ライセンス サーバーには、`system_admin` と呼ばれる管理者アカウントが用意されています。最初のインストール時に、パスワードを設定するように促されます。
- **ファイル システムのセキュリティ:** ローカル ファイル システムには、以下のようないくつかの機密情報が保存されています。
 - データベース証明書
 - LDAP 証明書 (使用する場合)
 - ファイル コンテンツ

この情報を漏洩させないためには、サーバーのオペレーティング システムのシステム セキュリティを維持することが重要です。オペレーティング システムのベンダーのガイダンスに従うことを推奨します。

- **HTTP トラnsポートのセキュリティ:** デフォルトでは、オンプレミス ライセンス サーバーは通常の HTTP で動作し、クライアントとサーバー間のすべての通信は暗号化されません。このため、ネットワーク スニффイング ツールに以下が晒される可能性があります
 - ライセンス要求
 - ファイル コンテンツ
 - 認証情報 (ユーザー名とパスワード)

これを回避するため、管理者は、安全な HTTP (HTTPS - セットアップのガイダンスについては、「[オンプレミス ライセンス マネージャーの設定](#)」を参照) を使用するようにサーバーを設定する必要があります。

3.5.6.1. Cookie とユーザー セッション情報の保存

オンプレミス ライセンス サーバーのセッション Cookie に関する以下のセキュリティ上の考慮事項に注意してください。

- **Access for Everyone が有効な場合:** フローティング ライセンスのユーザーはログインする必要がなく、Cookie は保存されません。
- **Access for Everyone が無効な場合:** エンコードされていない Cookie `appToken` が作成され、1 日後に失効します。
- **HTTPOnly 属性と Secure フラグが設定されていない場合:** これは、ライセンス サーバー ページが HTTP と HTTPS の両方のプロトコルで動作するようにするためです。セットアップのガイダンスについては、「[オンプレミス ライセンス マネージャーの設定](#)」を参照してください。

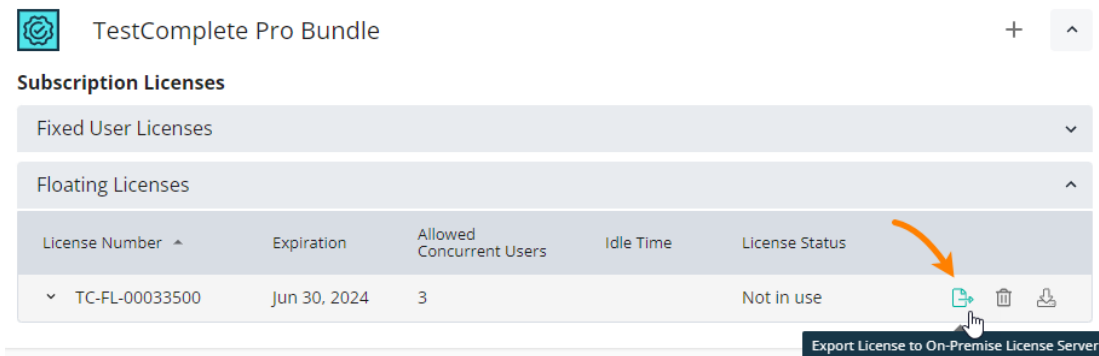
3.5.7. ライセンスを追加する

オンプレミス ライセンス サーバーをインストールして設定したら、ネットワーク内のユーザーに割り当てるため、サーバーにライセンスを追加します。

1. オフライン ライセンスをリクエストします。

オンプレミス ライセンス サーバーでフローティング ライセンスを有効にするには、SmartBear License Management ポータルからプライベート ネットワークにライセンスをエクスポートする必要があります。デフォルトでは、オンプレミス ライセンス サーバーの使用とライセンス エクスポート機能は無効になっています。これらの機能を有効にするには、[SmartBear または販売代理店](#)までご連絡ください。データベースを更新し、変換機能を有効にします。

SmartBear 側で処理が完了し、通知を受け取ったら、ライセンスをアクティベートします。機能が有効になると、SmartBear License Management ポータルでフローティング ライセンスの **[Export License ...]** ボタンが表示されます。

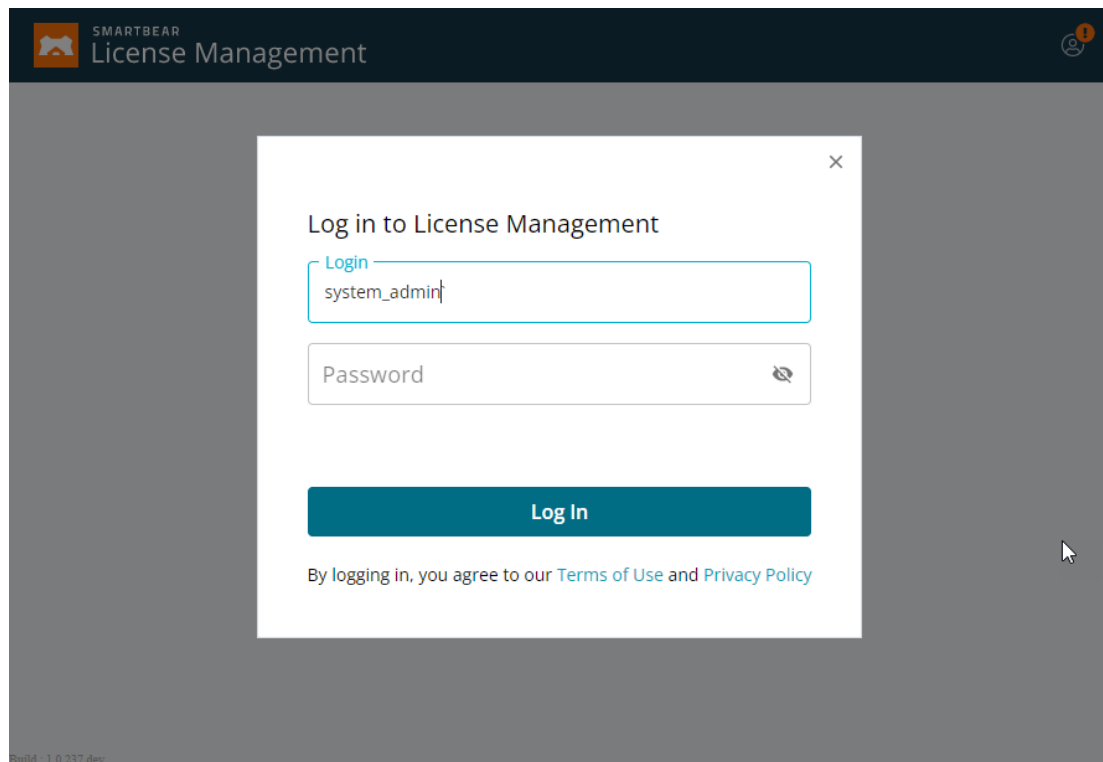


以下の手順に従って、ライセンスの追加と返却を行うことができます。

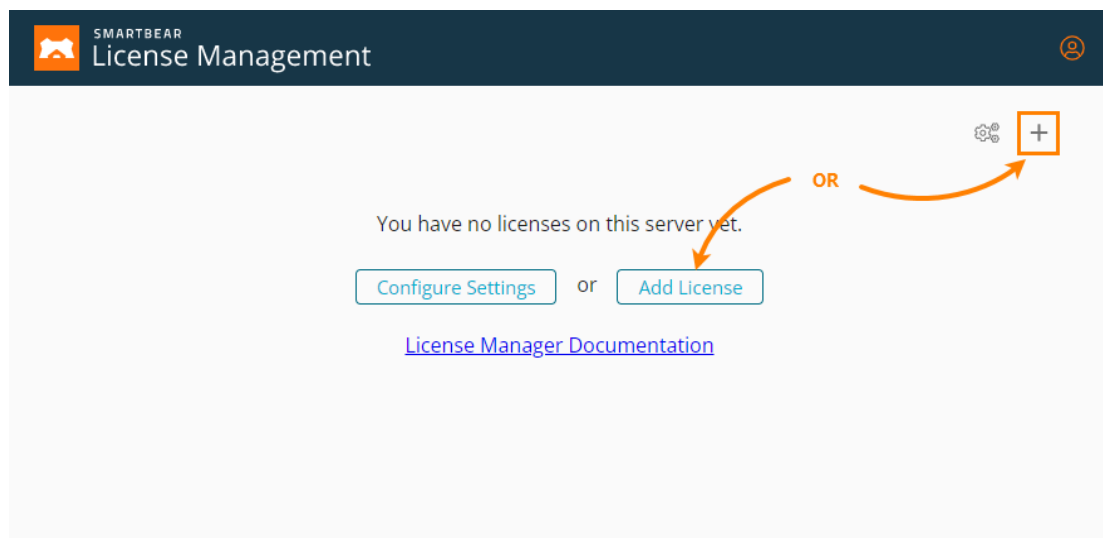
2. ライセンス アクティベーションを開始します。

SmartBear 側で処理が完了し、通知を受け取ったら、プライベート ネットワークでライセンスをアクティベートできます。

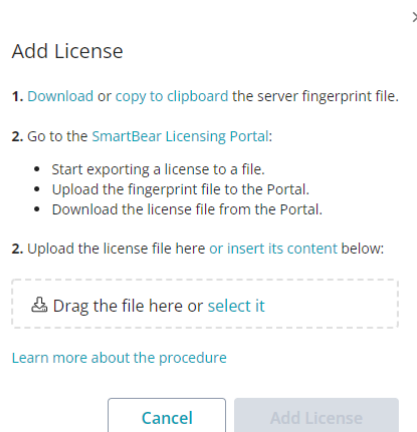
- ① ブラウザーで**オンプレミス ライセンス ポータル**を開き、**ライセンス サーバーのインストール**時に指定した管理者アカウントのユーザー名とパスワードでログインします。



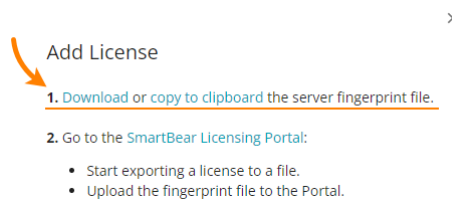
- ② ポータルで **[Add License]** (まだライセンスを追加していない場合) をクリックするか、右上の **[+]** をクリックします。



次のダイアログ ボックスが表示されます。



- ③ ダイアログで **[Download]** をクリックしてライセンス サーバーのフィンガープリント ファイルをダウンロードするか、フィンガープリント データをクリップボードにコピーします。フィンガープリント データには、ライセンス サーバーのハードウェアに関する情報がエンコードされています。



重要: ダイアログは閉じずに、開いたままにしてください。

3. ライセンスをエクスポートします。

! 注意

TestComplete の場合は、フィンガープリントの取得からモジュールのアクティベートまでの手順は、必ず Platform および各モジュールごとに別々に行ってください。

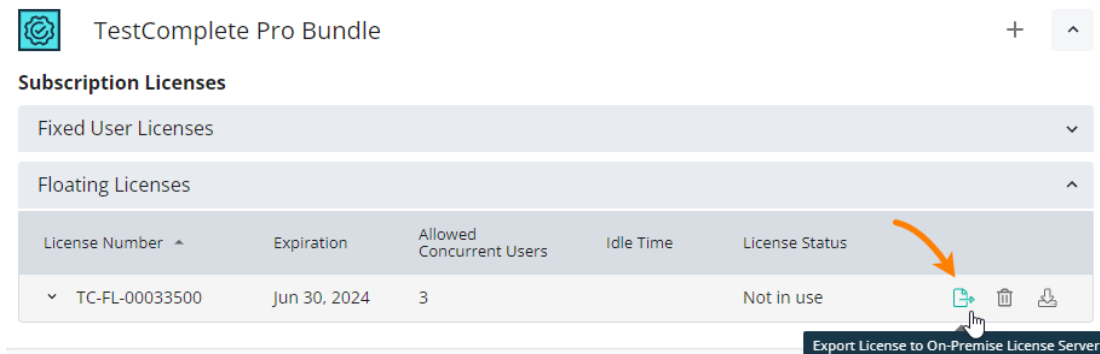
例えば、Platform のフィンガープリントを取得後に、同じフィンガープリントを使用してモジュールのアクティベートの手続きを実行するとライセンスが利用不能になります。

Desktop モジュールのフィンガープリントを Web モジュールに適用する場合なども利用不可になります。

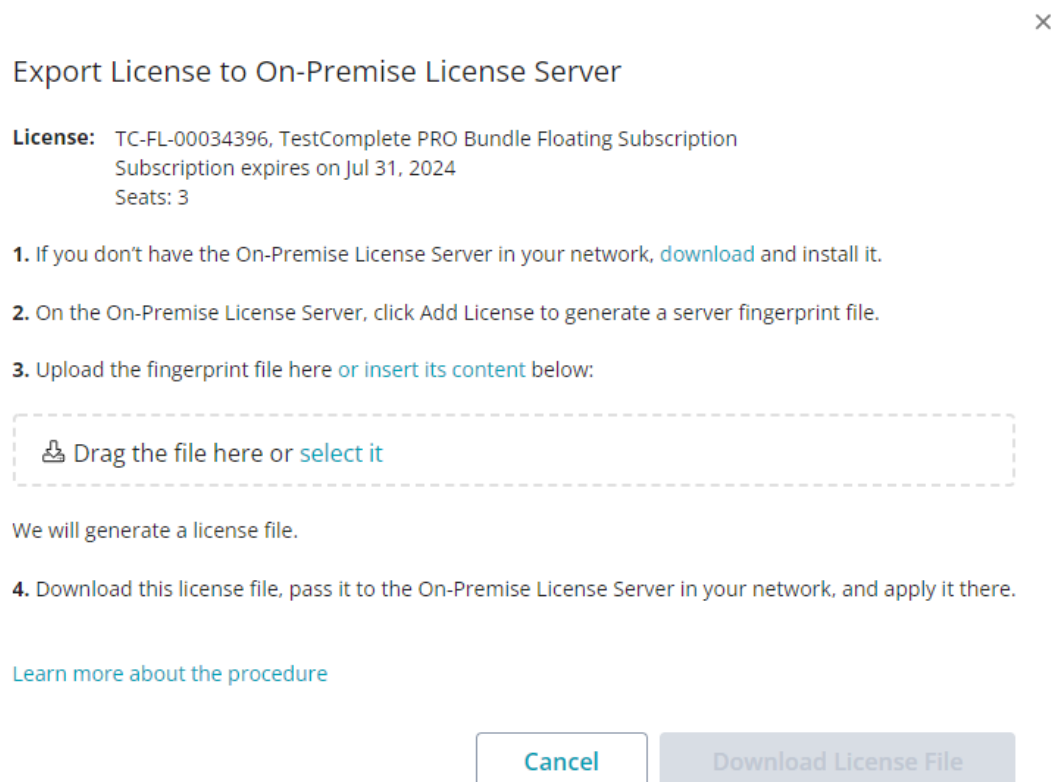
1 つのモジュールをアクティベート後、改めてフィンガープリントを取得して次のモジュールをアクティベートする必要があります。

複数のライセンスを保有されている場合も、ライセンスごとに行う必要があります。

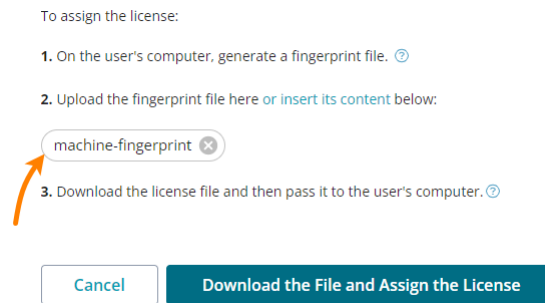
- ① インターネットに接続されたマシンで SmartBear License Management ポータル (<https://manage.smartbear.com>) を開き、**ライセンス管理者としてログイン**します。
- ② ポータルでエクスポートするフローティング ライセンスの **[Export License]** をクリックします。



以下のダイアログ ボックスが表示されます。

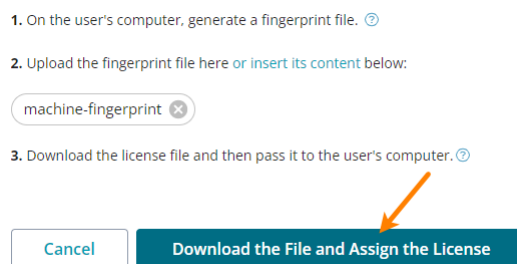


- ③ このダイアログで、オンプレミス ライセンス サーバーから取得したフィンガープリント ファイルをアップロードするか、その内容をダイアログに挿入してください。

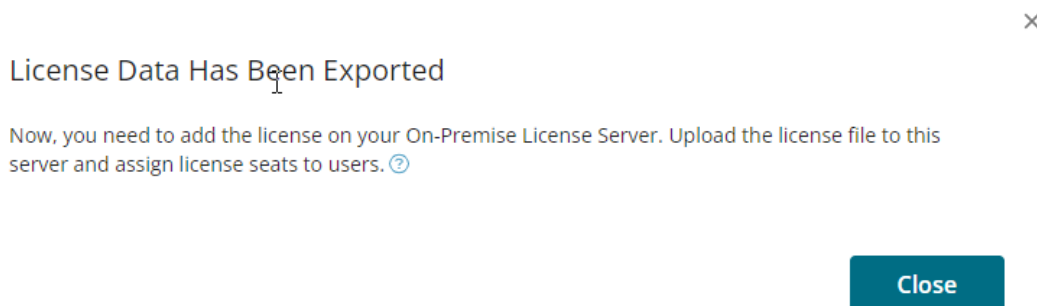


❗ 内容を挿入する場合は、**[insert its content]** リンクをクリックします。

- ④ フィンガープリント ファイルをアップロードすると、ライセンス データを含むファイルが生成されます。このファイルをダウンロードして、オンプレミス ライセンス サーバー マシンにコピーします。



正常にダウンロードされると、以下のようなメッセージが表示されます。



4. オンプレミス ライセンス サーバーにライセンスを追加します。

オンプレミス ライセンス ポータルに戻ります。**[Add License]** ダイアログでライセンス ファイルをアップロードするか、ライセンス ファイルの内容を挿入します。**[Add License]** をクリックして、サーバーでライセンスをアクティベートします。




Add License

1. [Download](#) or [copy to clipboard](#) the server fingerprint file.

2. Go to the [SmartBear Licensing Portal](#):

- Start exporting a license to a file.
- Upload the fingerprint file to the Portal.
- Download the license file from the Portal.

2. Upload the license file here or [insert its content](#) below:

TC-FL-00034396 Export To On-Premise.dat 

License: TC-FL-00034396, TestComplete PRO Bundle Floating Subscription
Subscription expires on Jul 31, 2024
Seats: 3

[Learn more about the procedure](#)

Cancel

Add License

ライセンスがオンプレミス ライセンス サーバーにバインドされ、Web 上の SmartBear ライセンス サーバーではなく、オンプレミス ライセンス サーバーによって管理されます。これで、プライベート ネットワークのユーザーにライセンス シートを割り当てることができます。

オフラインのフローティング ライセンスの追加と返却について紹介した動画を[こちら](#)からご覧いただけます。

3.5.8. ライセンスをユーザーに割り当てる

ユーザーにライセンス シートを割り当てるには、以下の操作が完了している必要があります。

- 利用可能なユーザー アカウントに関する情報を得るため、サーバーの [LDAP 設定](#)を行います。
- オンプレミス ライセンス サーバーに[ライセンスを追加](#)します。

ライセンスを割り当てるには、オンプレミス ライセンス ポータルに管理者として ([ライセンス サーバーのインストール](#)時に指定した管理者アカウントのユーザー名とパスワードで) ログインします。

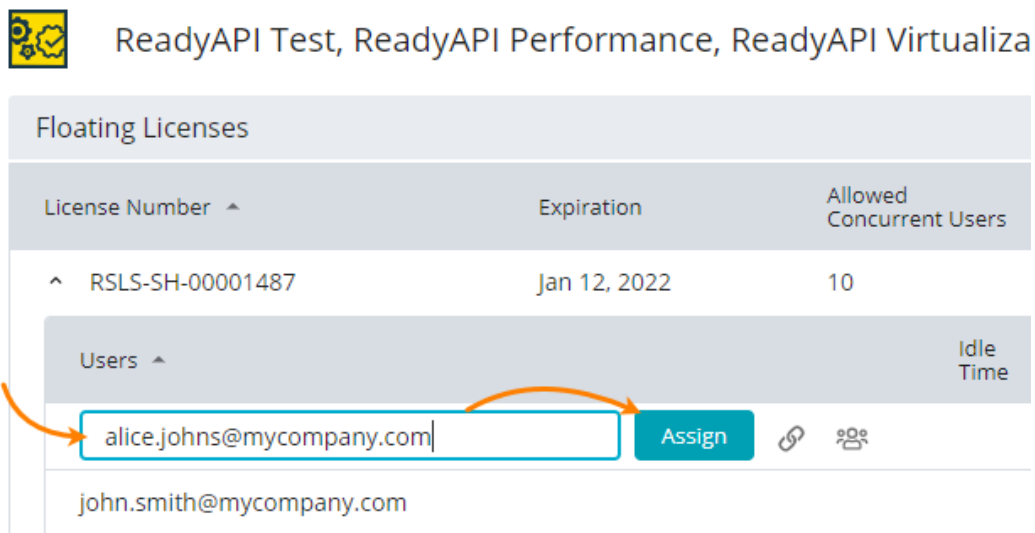
ライセンスは、以下のいずれかの方法で割り当てることができます。

- [1 人のユーザーにライセンスを割り当てる](#)
- [リンクを使用してライセンスを共有する](#)
- [一括割り当て](#)
- [\[Allow for everyone\] 設定を使用する](#)

ライセンス シートを複数のユーザーに割り当てる最も簡単な方法は、リンクを使用してライセンスを共有することです。一括割り当ては、SmartBear アカウントを持っているユーザーにライセンス シートをすばやく割り当てることができます。

■オプション 1: 1 ユーザーにライセンス シートを割り当てる

1. オンプレミス ライセンス サーバーで割り当てる製品とライセンスを見つけます。
2. ユーザー名を入力して **[Assign]** ボタンをクリックします (このボタンはユーザー名を入力するか、ドロップダウン リストから選択すると有効になります)。

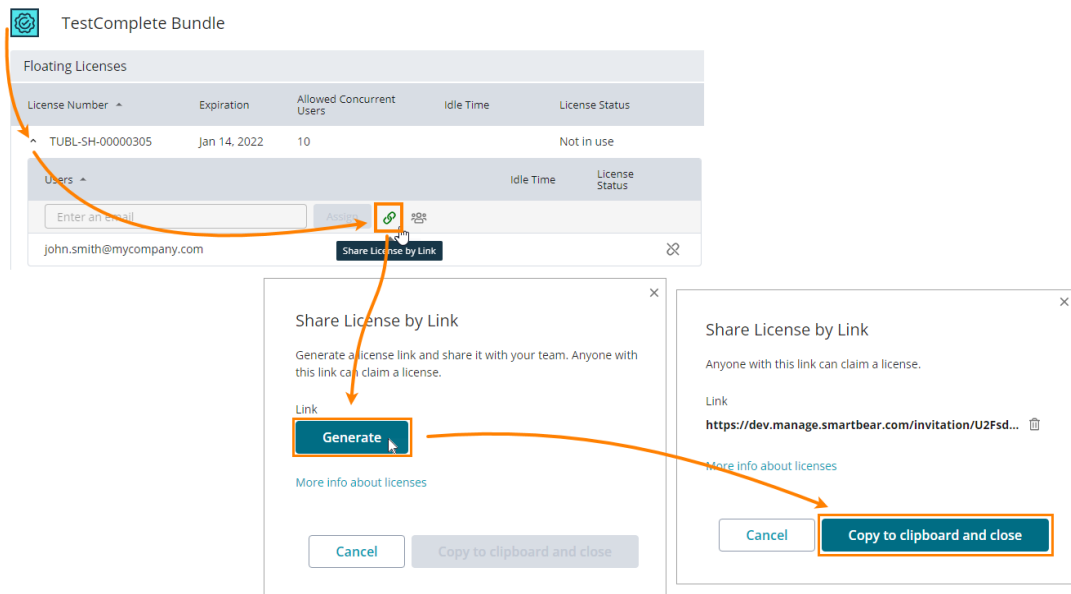


確認メッセージが表示されます。 **[Confirm]** をクリックします。

■ オプション 2: リンクを使用してライセンスを共有する

この方法は、複数のチーム メンバーとライセンスを共有する際に便利です。

1. オンプレミス ライセンス ポータルで製品とライセンスを見つけて、🔗 **[Share License by Link]** をクリックします。
2. 表示されるダイアログ ボックスで、**[Generate]** をクリックしてライセンスの URL を取得し、この URL をクリップボードにコピーします。



3. ライセンスを割り当てるユーザーに URL を送ります。ユーザーは URL を使用してライセンス シートを取得します。
4. ユーザーはライセンス URL を受け取ったら、ブラウザで開き、画面の指示に従ってください。
 - ライセンス管理ポータルへのログインが必要です。SmartBear アカウントを持っていない場合は、ログイン フォームから作成する必要があります。
 - ライセンスの承諾を求めるメッセージが表示されます。ライセンスを使用するには承諾する必要があります。

Hi Alice.

You are entitled to use the following license:

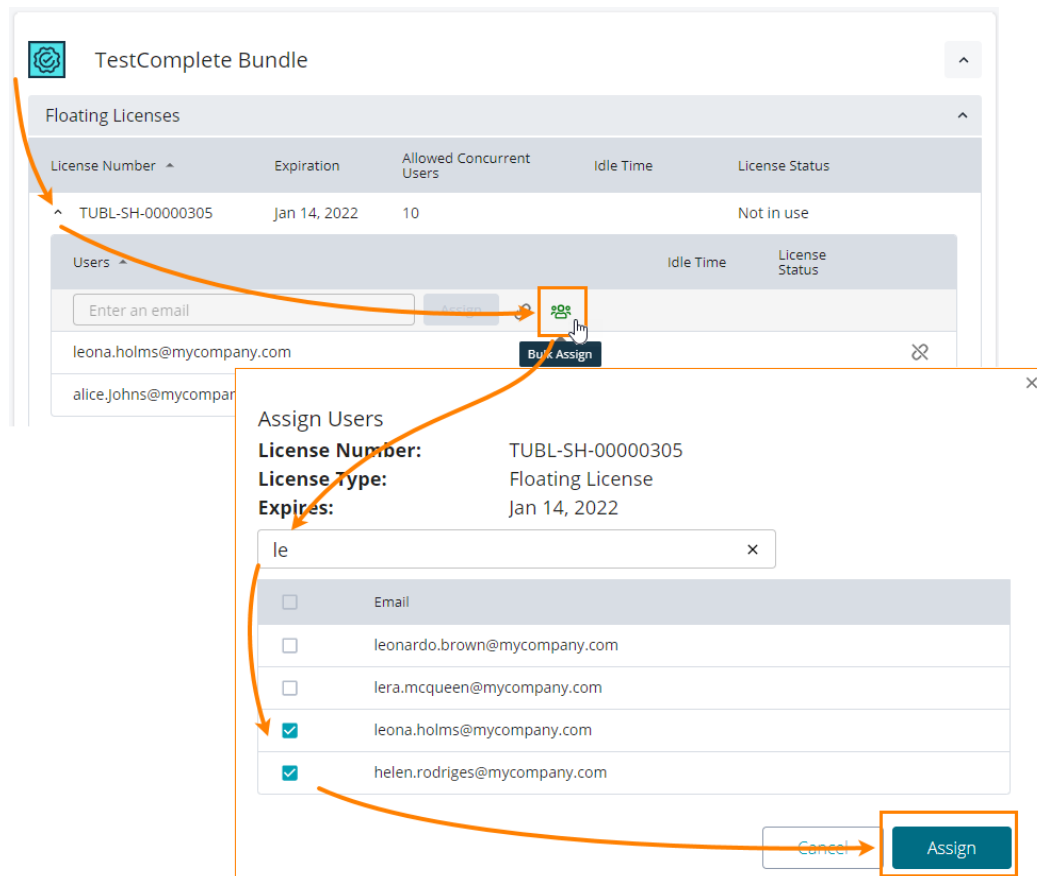
TUBL-SH-00000305
TestComplete Bundle License
Valid from Jan 14, 2021 till Jan 14, 2022

Accept?

Cancel

■オプション 3: 一括割り当て

オンプレミス ライセンス ポータルで製品とライセンスを見つけて、[Bulk Assign] をクリックします。表示されるダイアログでユーザー アカウントをクリックして、[Assign] をクリックします (このボタンは、ユーザーを選択すると有効になります)。



■オプション 4: [Allow for everyone] 設定を使用する

プライベート ネットワーク上で認証情報を入力せずにユーザーがライセンスを利用できるようにするには、[\[Allow for everyone\]](#) 設定を有効にします。

注意:

- ユーザーが SmartBear 製品を起動する際、ライセンス サーバーとしてオンプレミス ライセンス サーバーを指定する必要があります。その後、[ライセンス サーバーの設定](#)によっては、ドメインのユーザー名とパスワードの入力を求められます。表示されるダイアログは製品によって異なります。詳細は、SmartBear 製品のドキュメントを参照してください。
- アクティベートしたオフライン フローティング ライセンスはオンプレミス ライセンス サーバーにバインドされます。
- ライセンスを別のマシンに移動するには、まず現在のマシンでライセンスを解放し、ライセンス管理ポータルに戻す必要があります。詳細は、「[ライセンスを返却する](#)」を参照してください。

3.5.9. ライセンスの解放と取り消し

ユーザーが製品を使用していないにもかかわらず、ライセンス シートを消費している可能性は十分にあります。たとえば、製品を終了するのを忘れて帰宅した場合などです。この場合、ユーザーのライセンス シートを解放し（ユーザーをライセンス サーバーから切断し）、他のユーザーがライセンスを利用できるようにすることが可能です。

ライセンスの**解放**（ユーザーの**切断**）と**ライセンスの取り消し**は異なります。解放（切断）は、ユーザーによるライセンスの使用を終了するだけで、割り当てリスト（つまり、製品を利用可能なユーザーのリスト）から削除するものではありません。取り消しは、ユーザーを割り当てリストから削除します。

3.5.9.1. 必要条件

- ライセンス シートの解放/取り消しを行うには、オンプレミス ライセンス ポータルに管理者として（[ライセンス サーバーのインストール](#)時に指定した管理者アカウントのユーザー名とパスワードで）ログインします。
- [\[Allow for everyone\]](#) 設定が有効な場合、ネットワーク内のすべてのユーザーがオンプレミス ライセンス サーバー上のライセンスを利用できます。そのため、個別のシートを取り消すことはできません。

3.5.9.2. ライセンスを解放する（ユーザーを切断する）

- オンプレミス ライセンス ポータルで解放するライセンスを見つけます。
- [License status]** と **[Idle time]** を確認します。

ライセンスを解放できることを確認したら、**[Disconnect]** をクリックしてライセンスを解放します。

ReadyAPI Test, ReadyAPI Performance, ReadyAPI Virtualization

Subscription Licenses

Floating Licenses

License Number	Expiration	Allowed Concurrent Users	Idle Time	License Status
RSLS-SH-00000304	Jul 1, 2022	10		In use

Users

Enter an email	Assign	Idle Time	License Status	
alice.johns@mycompany.com		a few seconds	Using the license	Disconnect
helen.rodriques@mycompany.com				
john.smith@mycompany.com		an hour	Using the License	Disconnect
leonardo.brown@mycompany.com				

3. ユーザーが 2 台以上のマシンでライセンスを使用している場合、切断するマシンを指定するように求めるダイアログが表示されます。

ReadyAPI Test, ReadyAPI Performance, ReadyAPI Virtualization

Subscription Licenses

Floating Licenses

License Number	Expiration	Allowed Concurrent Users	Idle Time	License Status
^ RSL5-SH-00000304	Jul 1, 2022	10		In use

Users

Users	Idle Time	License Status
alice.johns@mycompany.com	a few seconds	Using the license
helen.rodrgies@mycompany.com		
john.smith@mycompany.com	View	Using 2 Licenses
leonardo.brown@		

Disconnect user john.smith@mycompany.com from license RSL5-SH-00000304

Machine	Idle Time
Test2	a few seconds
Test1	a few seconds

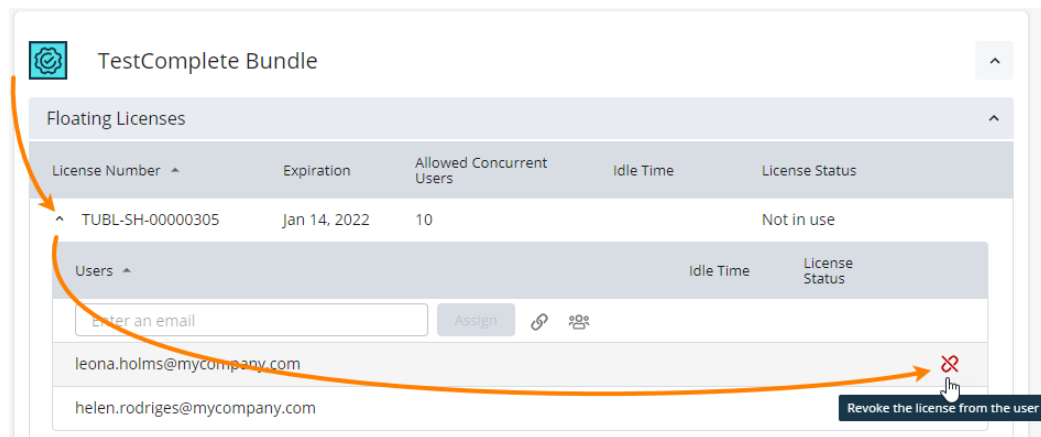
Select the machine to disconnect

Close

3.5.9.3. ライセンスを取り消す

ユーザーがライセンスを必要としなくなった場合、ライセンスを取り消すことができます。

1. オンプレミス ライセンス ポータルで、取り消す製品とライセンスを見つけます。
2. リストからユーザー アカウントを見つけます。[License status] と [Idle time] をチェックして、ユーザーが製品を使用していないことを確認します。
3. ✕ をクリックして、ユーザーのライセンスを取り消します。




取り消したライセンスは別のユーザーに割り当てることができます。

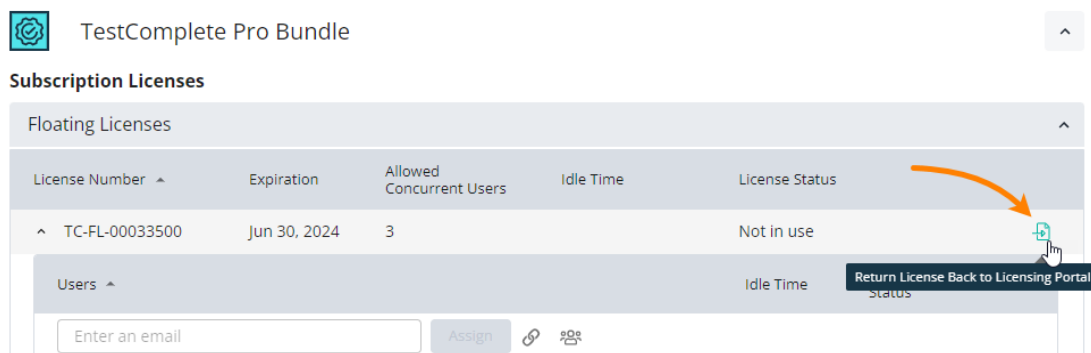
オフラインのフローティング ライセンスの解放と取り消しについて紹介した動画を[こちら](#)からご覧いただけます。

3.5.10. ライセンスを返却する

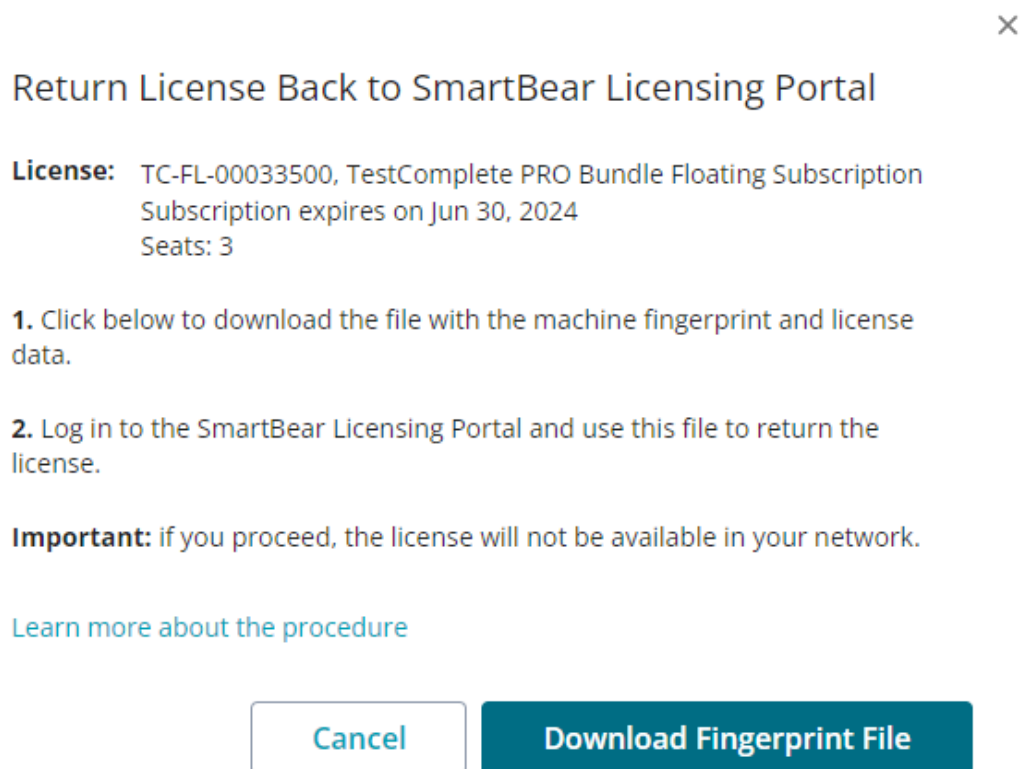
ライセンス管理者がネットワーク内のオンプレミス ライセンス サーバーでオフライン フローティング ライセンスをアクティベートすると、ライセンス サーバーのマシンにライセンスがバインドされます。このライセンスは、別のマシンで使用することはできません。ライセンスを別のマシンに移動したり、オンラインライセンスに戻すには、まずオンプレミス ライセンス サーバーでライセンスを解放し、ライセンス管理ポータルに戻す必要があります。

1. オンプレミス ライセンス サーバーでライセンスを解放します。

- ① ライセンスを使用しているすべてのユーザーに、SmartBear 製品を終了するように依頼します。
- ② オンプレミス ライセンス ポータルに管理者として ([ライセンス サーバーのインストール](#)時に指定した管理者アカウントのユーザー名とパスワードで) ログインします。
- ③ ポータルで、返却するライセンスを見つけて、 **[Return License Back]** をクリックします。



以下のダイアログ ボックスが表示されます。



[Download Fingerprint File] をクリックします。以下の処理が行われます。

- オンプレミス ライセンス サーバーとライセンスに関するデータを含むファイルが生成されダウンロードされます。
- ❗ オンプレミス ライセンス サーバー マシンからライセンスが解放され、ライセンスデータが削除されます。以下のような通知が表示されます。



The License Has Been Removed From Your License Server Successfully

Now, you need to pass the fingerprint file to the SmartBear Licensing Portal to complete the procedure <http://manage.smartbear.com>

[See instructions](#)

Close

これで、ライセンスはオンプレミス ライセンス サーバーで管理されなくなりますが、削除処理はまだ完了ではありません。Web 上の SmartBear License Management ポータルの情報を更新する必要があります。

2. SmartBear License Management ポータルにライセンスをインポートします。

! 注意

TestComplete の場合は、フィンガープリントの取得からモジュールのディアクティベートまでの手順は、必ず Platform および各モジュールごとに別々に行ってください。

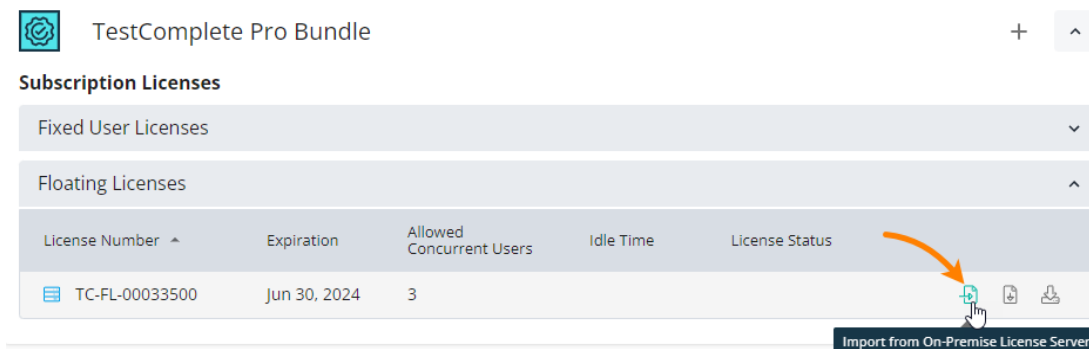
例えば、Platform のフィンガープリントを取得後に、同じフィンガープリントを使用してモジュールのディアクティベートの手続きを実行するとライセンスが利用不能になります。

Desktop モジュールのフィンガープリントを Web モジュールに適用する場合なども利用不可になります。

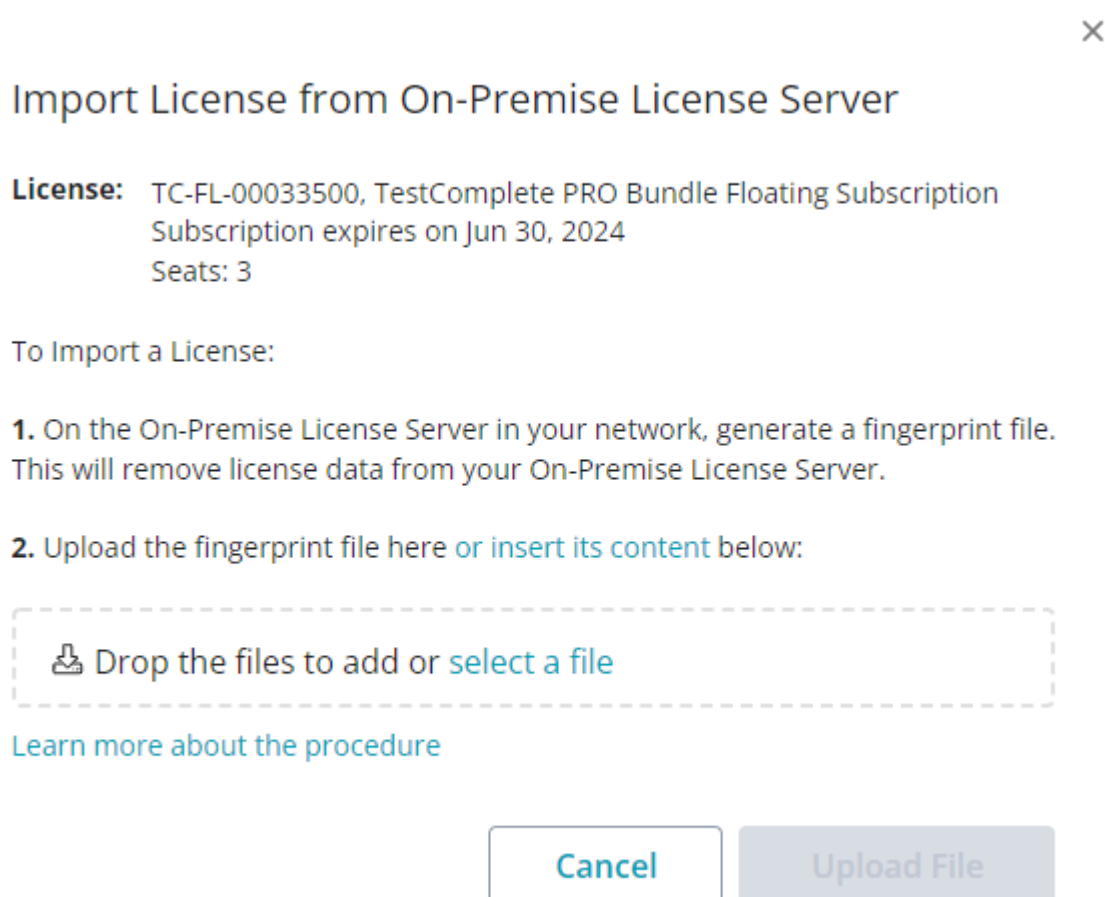
1 つのモジュールをディアクティベート後、改めてフィンガープリントを取得して次のモジュールをディアクティベートする必要があります。

複数のライセンスを保有されている場合も、ライセンスごとに行う必要があります。

- ① インターネットに接続されたマシンで、ライセンス管理者の認証情報を使用して **SmartBear License Management** ポータル (<https://manage.smartbear.com>) にログインします。
- ② ポータルで、オフライン フローティング ライセンスを見つけて、**[Import from On-Premise License Server]** をクリックします。



以下のダイアログ ボックスが表示されます。



- ③ ダイアログで、オンプレミス ライセンス サーバーからダウンロードしたフィンガープリント ファイルをアップロードするか、その内容をダイアログに挿入してください。

×

Import License from On-Premise License Server

License: TC-FL-00033500, TestComplete PRO Bundle Floating Subscription
Subscription expires on Jun 30, 2024
Seats: 3

To Import a License:

1. On the On-Premise License Server in your network, generate a fingerprint file. This will remove license data from your On-Premise License Server.
2. Upload the fingerprint file here [or insert its content](#) below:

TC-FL-00033500 Return to SmartBear Licensing Portal.dat ×

[Learn more about the procedure](#)

Cancel

Upload File

❗ 内容を挿入する場合は、**[insert content]** リンクをクリックします。

1. On the On-Premise License Server in your network, generate a fingerprint file. This will remove license data from your On-Premise License Server.
2. Upload the fingerprint file here [or insert its content](#) below:

📁 Drop the files to add or [select a file](#)

[Upload File] をクリックします。SmartBear ライセンス データベースが更新され、ライセンスが利用可能になります。以下の通知が表示されます。



License Has Been Imported Successfully

License: TC-FL-00033500, TestComplete PRO Bundle Floating Subscription
Subscription expires on Jun 30, 2024
Seats: 3

Now the license is controlled by the SmartBear license server.


You need to assign license seats to users.

Close

これで、ライセンスがオンプレミス ライセンス サーバーから解放されました。別のマシンや別のプライベート ネットワークでアクティベートできます。ただし、まだ**オフライン** ライセンスのままなので、必要に応じて、**オンライン**に変換してください。

3.5.11. ヘッドレス テストでライセンスを使用する

SmartBear 製品のライセンスをプライベート ネットワークでヘッドレス テストに使用するには、以下の操作を行います。

1. オンプレミス ライセンス サーバーを [リクエスト](#)し、ヘッドレス マシンに [インストール](#)します。
2. 以下の認証情報でログインします。
 - ユーザー名: anonymous.user
 - パスワード: <任意のもの、ただし空白は不可>
3. オプションで [\[Allow for Everyone\]](#) 設定を有効にします。
4. オンプレミス ライセンス サーバー UI の右上から  > **[Access Key]** を選択して、表示されるダイアログでアクセス キーをコピーします。
5. 製品のドキュメントで指定されているように、コマンドライン設定でアクセス キーを使用します。

4. サポート


4.1. FAQ

1. SAML 認証によるシングル サインオン (SSO) を使用して SmartBear License Management にアクセスできますか?

はい、以下の SAML 2.0 ベースの IDP (ID プロバイダー) を使用できます。

- Azure Active Directory
- OneLogin
- PingFederate
- Okta

エンティティの SSO を設定するには、[SwaggerHub](#)、[ReadyAPI](#)、または [TestComplete](#) から **[Issue Type]** を **[Other]** にしてサポート リクエストを送信してください。VisualTest と SwaggerHub Explore は、上記のいずれかの URL から **[Problem Description]** フィールドに製品名を記入してサポート リクエストを送信してください。

 SSO を有効にすると、エンティティ内のすべてのユーザーが、関連するすべての SmartBear 製品で SSO に切り替わります。詳細は、「[SmartBear ID](#)」を参照してください。

2. 製品の実行中ライセンス サーバーに接続している必要はありますか?

デフォルトでは、SmartBear License Management は、製品の起動時と実行時に接続を必要とします。製品は終始、SmartBear ライセンス サーバーとライセンスの使用に関する情報を交換します。必要に応じて、インターネットに接続されていないプライベート ネットワークで利用することも可能です。詳しくは、[SmartBear または販売代理店](#)にお問い合わせください。

3. ライセンス サーバーは、製品が実行されているマシンやライセンス ユーザーに関する情報を保存しますか?

以下の情報が SmartBear ライセンス サーバーに保存されます。

- SmartBear アカунトのデータ (メール アドレスとパスワード)。
- フローティング ライセンスの場合、ライセンスを使用中のマシン名。ユーザーが複数のマシンでライセンス シートを使用している場合にライセンス管理者 (お客様側の担当者) に表示され、解放可能なライセンス シートを判断する際などに便利です。

上記以外のデータは保存されません。また、SmartBear がこれらのデータを請負業者や第三者に渡すことはありません。

4. SmartBear License Management のユーザーに対して、どのようなセキュリティ対策が実施されていますか？

このサービスは、暗号化された AWS の仮想プライベート クラウド上でホストされています。暗号化された VPN を介して、SmartBear の許可された担当者のみがデータにアクセスでき、すべてのアクセスはログに記録されます。保守管理を含む、ユーザーとサービスとのやり取りは、暗号化された通信チャネルおよびプロトコルを介して行われます。

5. 実行中にインターネット接続が切れた場合はどうなりますか？

製品は継続して動作します。最大 24 時間以内に接続を回復させることができます。この時間が経過しても接続が回復しない場合、製品は動作を停止します。

6. クラッシュなどのエラーでライセンスが解放されなかった場合、どうすればライセンスを使えるようになりますか？

製品を再度実行するだけです。同じマシンの場合、他に必要な操作はありません。別のマシンで製品を起動する場合は、SmartBear ライセンス サーバーが使用中のマシンの情報を更新するため、数分かかることがあります。

7. 部署ごとにライセンスをグループ化できますか？

はい、ライセンス管理者はポータルでライセンスをグループ化できます。

4.2. 用語

ライセンス管理者: ライセンスの割り当て、解放、管理を行う権限があるお客様側の担当者。SmartBear 製品の運用担当者とは別場合があります。

SmartBear アカウント: 製品ライセンスの使用、あるいは SmartBear オンライン サービスやポータルへのログインに使用するメール アドレスとパスワード。

4.3. お問い合わせ

SmartBear 社のサポート ポータル: <https://support.smartbear.com/>

SmartBear 製品のコミュニティ: <https://community.smartbear.com>

エクセルソフト株式会社ではテクニカル サポートを下記のお問い合わせ窓口より承っております。

http://www.xlsoft.com/jp/services/xlsoft_form.html

エクセルソフト株式会社

〒108-0073 東京都港区三田 3-9-9 森伝ビル 6F

<https://www.xlsoft.com>

E-Mail: xlsoftkk@xlsoft.com